

《資料紹介》

最勝寺推定地出土瓦の再検討

上村 和直

1. はじめに

平安京及び周辺から出土した瓦類の研究は、今日まで徐々にではあるが着実に進められている。ただ、既往の調査の中には、資料報告が十分でないものも多く、研究を進める上で支障となっている。このような資料に付いては、調査状況などを知りうるものが報告する事は研究上の責務と言える。

最勝寺推定地出土瓦もその一つであり、六勝寺所用瓦の使用状況や平安時代の瓦を検討する上で貴重な資料であるにもかかわらず、出土瓦類の一部しか報告されておらず、全容が明らかであるとは言い難い。

最勝寺推定地の発掘調査は、京都市岡崎グラウンド整備に伴うもので、1991年9月30日～1992年9月17日に、京都市埋蔵文化財研究所が実施した。調査概要は、1995年に「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』で報告された〔内田ほか1995〕。

本稿は、本資料の重要性に鑑み、軒瓦の基礎的な整理を行った上で、報告することを目的とした。

なお、資料再整理にあたっては、資料を保管されている京都市埋蔵文化財研究所に便宜をはかって頂いた。また、調査所見・瓦類出土状況等については、丸川義広氏にご教示を受けた。記して感謝致します。

2. 検出遺構の概要

(1) 検出遺構の概要〔図1、表1〕

調査地は推定最勝寺域の東部に位置し、南北道路（推定法勝寺西大路）を挟んで法勝寺域に接する。発掘調査では、平安時代後期の遺構と平安時代以降・以前の遺構を検出した。平安時代後期の遺構には、調査区南辺（南区）で推定二条大路末路面（地業100）、その北側で大路北側溝（東西溝16）と東西築地（地業111）がある。二条大路末路面の下層で東西溝35を検出した。これらの遺構の北側では平安時代の遺構は全く確認していない。また、南西区では南北溝（南北溝130）を検出した。

その他、調査区全域で平安時代後期以降の瓦溜・東西溝群・南北溝群・攪乱を多数検出した。

遺構別の軒瓦出土数は、南区地業100から10点、南区東西溝16から331点、南区地業111関連遺構から15点、南区東西溝35から17点出土した。

それ以外の遺構では、南区・北区の攪乱から92点、南区瓦溜から71点、南区平安時代整地層か

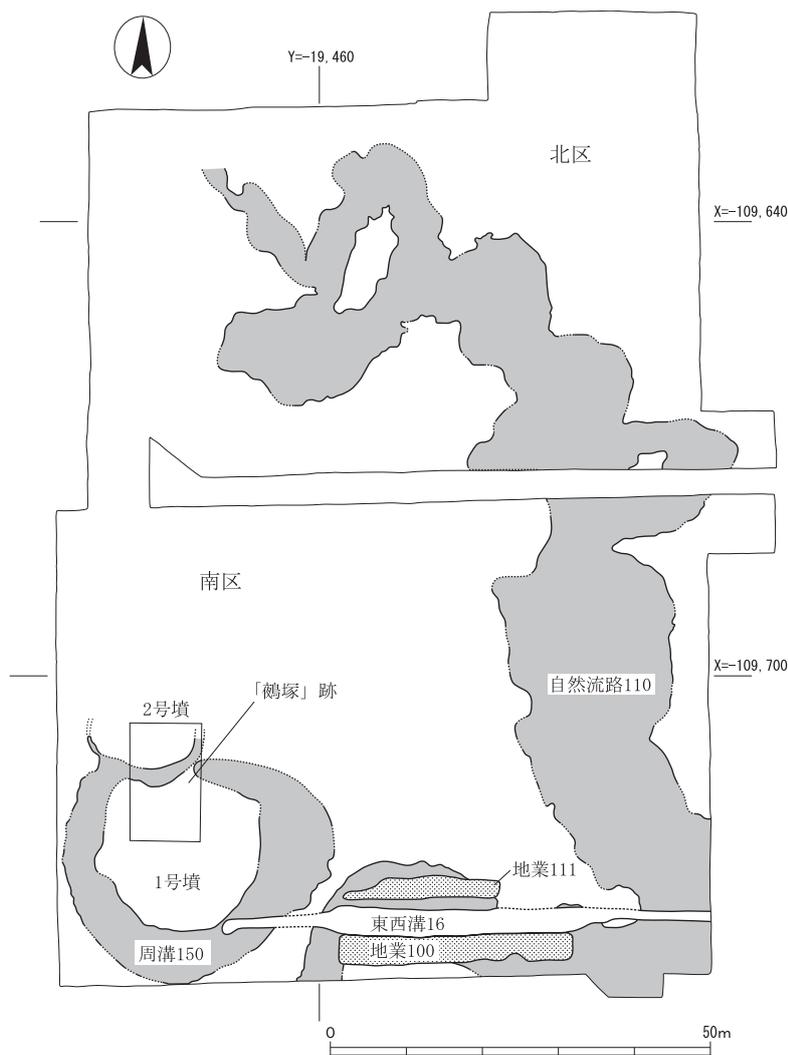


図1 主要遺構配置図（内田ほか1995一部改変）

ら37点、南区南部落込から24点出土した。

以上のように、二条大路末北築地側溝（東西溝16）出土軒瓦数が最も多くて40%を占め、他の平安時代の遺構からの出土量は限定的である。

遺構別の軒瓦の出土数は、表1の通りである。

3. 出土瓦類の概要

調査で出土した瓦類は、遺物整理箱52箱分である。瓦類の種類には、軒丸瓦・軒平瓦などがある。軒瓦の出土点数は、軒丸瓦374点・軒平瓦340点、総数714点である。その他の瓦の出土点数は、道具瓦1点、丸瓦2点、平瓦1点、埴1点である。

出土軒瓦の数量及び時期・

産地毎の内訳は表2に示した。個々の瓦類の詳細については、遺物観察表に掲載した〔表3・4〕。

4. 軒瓦の分類

(1) 軒丸瓦

軒丸瓦は、瓦当紋様から分類すると88種374点で、小片又は紋様が不明瞭なため型式が認定できないものが83点ある。瓦当紋様は、蓮華紋・蓮華巴紋・巴紋・文字紋・唐草紋に大別できる。

蓮華紋は72種275点出土し、複弁蓮華紋・単弁蓮華紋・単復混合蓮華紋に大別でき、さらに、中房・蓮弁・間弁の形状及び外区の有無などにより細分できる。複弁蓮華紋34種113点・単弁蓮華紋34種136点・単復混合蓮華紋4種7点、その他の蓮華紋19点である。

蓮華巴紋は3種19点出土し、外区紋様の形状により細分できる

巴紋は11種67点出土し、巴の巻き込み方向により右巻き・左巻きに分かれ、巴紋の単位数、頭部・尾部の接続方法、及び外区の有無などにより細分できる。

文字紋は1種1点出土した。唐草紋は1種1点出土した。

各種類毎の点数は、軒丸瓦112が24点、138が21点、175が15点、130が14点、115が11点、

表1 遺構別瓦類出土数量表

遺構名	9～11中葉	11世紀後葉		11後葉～12世紀		12世紀		13世紀		16世紀以降		時期不明		計
	軒丸	軒丸	軒平	軒丸	軒平	軒丸	軒平	軒丸	軒平	軒丸	軒平	軒丸	軒平	
南区地業100 (推定二条大路末路面)						6	4							10
南区東西溝16 (推定二条大路末北側溝)		31	11	13	22	132	114	5	2			1		331
南区地業111(推定二条大路末北築地) 関連遺構		1	2	2		6	3		1					15
南区東西溝35(推定二条大路末路面下層溝)		1			1	9	6							17
南区攪乱	1	2	2	4	3	33	29	2	5	2	2	1		86
南区瓦溜		2	1	1	6	19	40					1	1	71
南区近世遺構		1	1			3	5							10
南区斜行溝群		1				3	8	1						13
南区清掃中		1		1	1	8	6		1			1		19
南区東西瓦溝群		1	1			5								7
南区東西溝群	1		1			12	10		1					25
南区土坑群						5	2		1		1			9
南区南部落込						15	8				1			24
南区南北溝群						1	4							5
南区平安時代整地層		1				17	16	2				1		37
南区自然流路110		1				3	1							5
北区攪乱						1	5							6
南西区諸遺構				1		10	10							21
南区・北区不明			1			1				1				3
計	2	43	20	22	33	289	271	10	11	3	4	5	1	714

149・167が10点、126・164が9点、137が8点、133・165が7点、170が6点、119・123・166・178・187が5点とやや多いが、他は1種4点以下と少ない。

型式としては、大和産複弁蓮華紋軒丸瓦112が24点、備前産複弁蓮華紋軒丸瓦115～117が15点、山城産復弁蓮華紋軒丸瓦126が9点、山城産単弁蓮華紋軒丸瓦130が14点、山城産単弁蓮華紋軒丸瓦138～140が29点、播磨産複弁蓮華紋軒丸瓦149～151が12点、丹波産単弁蓮華紋軒丸瓦164・165が16点、丹波産単弁蓮華紋軒丸瓦166・167が15点、山城産巴蓮華紋軒丸瓦174・175が17点とまとまる。

(2) 軒平瓦

軒平瓦は、瓦当紋様から分類すると60種340点で、小片又は紋様が不明瞭なため型式が認定できないものが98点ある。瓦当紋様は、唐草紋・半裁花紋・剣頭紋・剣巴紋・連巴紋・幾何学紋・連珠紋・文字紋に大別できる。

唐草紋は49種291点出土し、外行唐草紋・内行唐草紋・偏行唐草紋に分類できる。さらに、中心紋の形・有無、唐草の形状及び外区の有無・形状などにより細分できる。外行唐草紋は41種225点、内行唐草紋は3種7点、偏行唐草紋は4種17点、その他の唐草紋は42点出土した。

半裁花紋は2種5点出土し、花紋の形状によって細分できる。剣頭紋は2種19点出土し、陰刻で形状により細分できる。剣巴紋は2種5点出土し、陽刻・陰刻で細分できる。連巴紋は4種12点出土し、形状により細分できる。幾何学紋は1種3点出土した。連珠紋は1種1点出土した。文字紋は1種1点出土した。

各種類毎の点数は、軒平瓦225が28点、229が25点、237が14点、204・206が13点、227が10点、220が8点、211・222が7点、230・231・234・256が6点、207・233が5点とやや多いが、他は1種4点以下と少ない。

型式としては、丹波産外行唐草紋軒平瓦203・204が16点、讃岐産外行唐草紋軒平瓦206～208が22点、山城産唐草紋軒平瓦211が7点、山城産偏行唐草紋軒平瓦220が8点、丹波産外行唐草紋軒平瓦225・226が30点、丹波産外行唐草紋軒平瓦227・228が12点、丹波産外行唐草紋軒平瓦229が25点、丹波産外行唐草紋軒平瓦230・231が12点、丹波産外行唐草紋軒平瓦233～236が14点、丹波産外行唐草紋軒平瓦237が14点とまとまる。

5. 軒瓦の時期

軒瓦の時期は、瓦当紋様系譜や成形技法の特徴、及び同範・同紋瓦の出土した遺跡の造営・再建年代などから判断した。時期は、①平安時代前期～中期(9世紀～11世紀中葉)、②平安時代後期初葉(11世紀後葉)、③平安時代後期前葉(11世紀～12世紀)、④平安時代後期中葉・後葉(12世紀)、⑤鎌倉時代以降(13世紀以降)に分けられるが、時期が不明なものも少なくない。

(1) 平安時代前期～中期(9世紀～11世紀中葉)

平安時代前期～中期(9世紀～11世紀中葉)と推定した軒瓦は、軒丸瓦2点出土した。

当該期の同範・同紋瓦は、西寺・平安宮(1072年頃再建)・法勝寺金堂回廊下層(白河殿関係遺

表2 軒瓦分類別出土表

時期	種類	紋様	山城	播磨	丹波	大和	讃岐	河内	和泉	備前	産地不明	計	
9～11世紀中葉	軒丸瓦	複弁蓮華紋						1				1	
		単弁蓮華紋	1									1	
11世紀後葉	軒丸瓦	複弁蓮華紋		5		33						38	
		単弁蓮華紋				3					1	4	
		梵字紋				1						1	
	軒平瓦	外行唐草紋		2	18							20	
11世紀後葉～12世紀	軒丸瓦	複弁蓮華紋					2			15	5	22	
		外行唐草紋			6		22			2		30	
		内行唐草紋	3									3	
12世紀	軒丸瓦	複弁蓮華紋	19	21	4						2	46	
		単弁蓮華紋	78	12	31	2					8	131	
		単複混合弁	7									7	
		蓮華紋	9								9	18	
		蓮華巴紋	17	2								19	
		巴紋	56	1							4	61	
		唐草紋									1	1	
		紋様不明	2								4	6	
	軒平瓦	外行唐草紋	17	9	136	1				1	3	5	172
		内行唐草紋	1		1							2	4
		偏行唐草紋	12	1	4								17
		唐草紋	21	1	7							9	38
		半裁花紋	5										5
		劍頭紋	16										16
		劍巴紋	4										4
連巴紋	7										7		
幾何学紋	3										3		
紋様不明	1		1							3	5		
13世紀	軒丸瓦	複弁蓮華紋	6									6	
		巴紋	2								1	3	
		紋様不明									1	1	
	軒平瓦	外行唐草紋										3	3
		唐草紋									1	1	
		劍巴紋	1									1	
		劍頭紋	2								1	3	
		文字紋						1			1		
		連珠紋						1			1		
		不明								1	1		
16世紀以降	軒丸瓦	蓮華紋									1	1	
		巴紋									2	2	
	軒平瓦	唐草紋									3	3	
		不明									1	1	
時期不明	軒丸瓦	巴紋									1	1	
		紋様不明									4	4	
	軒平瓦	紋様不明									1	1	
計			290	54	208	40	24	1	3	20	74	714	

構、1075年以前)などで確認した。

(2) 平安時代後期初葉(11世紀後葉)

平安時代後期初葉(11世紀後葉)と推定した軒瓦は、軒丸瓦43点・軒平瓦20点、計63点出土した。

当該期の同範・同紋瓦は、平安宮朝堂院(1072年頃再建)・平安宮真言院(1066年頃再建)・平安宮会昌門(1072年頃再建)・法成寺(1065年再建)・円宗寺(1070年頃造営)・平等院(1076年供養)・法勝寺金堂(1077年供養)・法勝寺阿弥陀堂(1077年供養)・法勝寺塔(1083年供養)・薬師寺(1077～1081年再建)・興福寺(VI期、1078～1103年再建)などで確認した。

(3) 平安時代後期前葉(11世紀後葉～12世紀)

平安時代後期前葉(11世紀後葉～12世紀)と推定した軒瓦は、軒丸瓦22点・軒平瓦33点、計55点出土した

当該期の同範・同紋瓦は、平安宮内裏(1098年頃再建)・平安宮朝堂院(1072年頃再建)・広隆寺(1165年再建)・法勝寺(1077年供養)・尊勝寺(1102年供養)などで確認した。

(4) 平安時代後期中葉・後葉(12世紀)

平安時代後期中葉・後葉(12世紀)と推定した軒瓦は、軒丸瓦289点・軒平瓦271点、計560点出土した。

当該期の同範・同紋瓦は、平安宮(1157年頃再建)・法勝寺(1077年供養)・尊勝寺(1102年供養)・尊勝寺阿弥陀堂(1105年供養)・円勝寺(1126年供養)・成勝寺(1139年供養)・仁和寺(1120年頃再建)・法金剛院(1129年供養)・東寺・醍醐栢杜堂(八角円堂、1155年供養)、興福寺(VII期、1130～1180年再建)などで確認した。これらの瓦の時期を各寺院等の出土瓦と比較し、12世紀前葉・中葉・後葉に特定できるものもあるが、現段階では詳細な時期は区分し難い。

(5) 鎌倉時代以降(13世紀以降)

鎌倉時代以降と推定した軒瓦は、軒丸瓦10点・軒平瓦11点、計21点出土した。

当該期の同範・同紋瓦は、最勝光院(1228年再建)・亀山殿(1255年造営)などで確認した。

16世紀以降と推定した軒瓦は、軒丸瓦3点、軒平瓦4点、計7点出土した。

6. 軒瓦の産地

出土軒瓦の生産地は、同範瓦・同紋瓦の出土した生産遺跡・周辺遺跡、及び瓦当紋様系譜や成形技法の特徴などから判断した。産地は、山城・播磨・丹波・大和・讃岐・河内・和泉・備前などと推定できるが、産地が不明なものも少なくない。

(1) 山城国

山城産と推定した軒瓦は、軒丸瓦197点・軒平瓦93点、計290点出土した。

軒丸瓦102は森ヶ東瓦窯・池田瓦窯などで同紋瓦を確認した。軒丸瓦121・122・128・129・151は栗栖野窯で同紋瓦を確認した。軒平瓦211・220は栗栖野窯で同範瓦を確認した。軒丸瓦129、軒平瓦211・251は南ノ庄田瓦窯で同紋瓦を確認した。

この他、瓦当紋様系譜・成形技法などから、軒丸瓦123～128・130～144・174・175・177～185・187・188、軒平瓦201・202・212～219・221・250・252～258は山城産と推定した。

(2) 播磨国

播磨産と推定した軒瓦は、軒丸瓦41点・軒平瓦13点、計54点出土した。

軒丸瓦103・106・153・154・157、軒平瓦223は神出窯で同紋瓦を確認した。軒丸瓦145～147・152・158・159・161・186、軒平瓦223・224は林崎三本松窯で同紋瓦を確認した。軒丸瓦154は久留美平井窯、軒平瓦224は久留美柳谷窯で同紋瓦を確認した。

この他、瓦当紋様系譜・成形技法などから、軒丸瓦104・105・148～151・155・156・160・176、軒平瓦209・222は播磨産と推定した。

(3) 丹波国

丹波産と推定した軒瓦は、軒丸瓦35点・軒平瓦173点、計208点出土した。

軒丸瓦164・166、軒平瓦225は出雲神社境内遺跡で同紋瓦を確認した。軒平瓦205は篠三軒屋南窯、軒平瓦226・227・228は篠窯で同紋瓦を確認した。

この他、瓦当紋様系譜・成形技法などから、軒丸瓦162・163・165・167、軒平瓦203・204・229～241は丹波産と推定した。

(4) 大和国

大和産と推定した軒瓦は、軒丸瓦39点・軒平瓦1点、計40点出土した。

大和産と推定した軒瓦の生産窯は明らかでないが、瓦当紋様系譜・成形技法などから軒丸瓦107～114・168、軒平瓦242・246は大和産と推定した。

(5) 讃岐国

讃岐産と推定した軒瓦は、軒丸瓦2点・軒平瓦22点、計24点出土した。

軒丸瓦120は北条池南岸窯・庄屋原窯、軒平瓦206は西村窯で同紋瓦を確認した。

この他、瓦当紋様系譜・成形技法などから、軒平瓦207・208は讃岐産と推定した。

(6) 河内国

河内産と推定した軒瓦は、軒丸瓦1点出土した。

軒丸瓦101は牧野阪瓦窯で同範瓦を確認した。

(7) 和泉国

和泉産と推定した軒瓦は、軒平瓦3点出土した。

和泉産と推定した軒瓦の生産窯は明らかでないが、瓦当紋様系譜・成形技法などから軒平瓦243・259・260は和泉産と推定した。

(8) 備前国

備前産と推定した軒瓦は、軒丸瓦15点・軒平瓦5点、計20点出土した。

備前産と推定した軒瓦の生産窯は明らかでないが、瓦当紋様系譜・成形技法などから軒丸瓦115～117、軒平瓦210・244・245は備前産と推定した。

7. 軒瓦の分析

(1) 平安時代後期初葉・前葉(11世紀後葉～12世紀)

平安時代後期初葉・前葉と推定した軒瓦は、軒丸瓦65点・軒平瓦53点、計118点で、全出土軒瓦の17%を占める。

産地別の割合は、山城3点(3%)、播磨7点(6%)、丹波24点(20%)、大和37点(31%)、讃岐24点(20%)、備前17点(14%)、不明6点である。大和産が約3割と最も多く、次いで丹波産・讃岐産が約2割、備前が1.5割と続き、他の山城・播磨は少ない。

当該期の軒瓦の内、播磨産軒丸瓦103～105(神出窯丸2401型式・円勝寺ER001型式)・軒平瓦209と、大和産軒丸瓦208・209(興福寺IV丸E型式)、111・112(興福寺IV丸A型式)のグループがまとまる。備前産軒丸瓦115～117と、丹波産軒平瓦203・204、讃岐産軒平瓦206～208のグループがややまとまる。

(2) 平安時代後期中葉・後葉(12世紀)

平安時代後期中葉・後葉(12世紀)と推定した軒瓦は、軒丸瓦289点・軒平瓦271点、計560点で、全出土軒瓦の78%を占める。

産地別の割合は、山城275点(49%)、播磨47点(8%)、丹波184点(33%)、大和3点(0.5%)、和泉1点(0.2%)、備前3点(0.5%)、不明47点である。山城産が約5割を占め、続いて丹波産が約3割、播磨が約1割、他の大和・和泉・備前は極少量である。

山城産軒瓦では、単弁蓮華紋軒丸瓦126(尊勝寺23A型式)・130(尊勝寺63型式、円勝寺ER032型式)、単弁蓮華紋軒丸瓦137～140(尊勝寺86型式)、蓮華巴紋軒丸瓦174・175(尊勝寺101型式)がまとまる。唐草紋軒平瓦211(尊勝寺174型式)がまとまる。

播磨産軒瓦では、播磨産複弁蓮華紋軒丸瓦149～151(円勝寺ER004型式)と、播磨産外行唐草紋軒平瓦222(円勝寺ER113型式)がまとまる。

丹波産軒瓦では、単弁蓮華紋軒丸瓦164・165(尊勝寺65型式・円勝寺ER030型式)・166・167(円勝寺ER029型式)がまとまる。外行唐草紋軒平瓦225・226(円勝寺ER117型式)、227・228(円勝寺ER118型式)、229(円勝寺ER108型式)、230・231(円勝寺ER123型式)がまとまる。

(3) 鎌倉時代以降(13世紀以降)

鎌倉時代以降と推定した軒瓦は、軒丸瓦10点・軒平瓦11点、計21点で、全出土軒瓦の3%を占める。山城産が11点で、他は産地不明である。

(4) 平安時代後期前葉軒瓦の出土状況

最勝寺推定地の南側に位置する円勝寺推定地第1次調査で出土した軒瓦は、その一部が法勝寺域で出土した軒瓦と共通する。さらに法成寺・平等院と共通するものもある。また、丹波系軒瓦・南都系軒瓦は、紋様系譜などから考え、円勝寺が造営・供養された大治元年(1126)～大治5年(1130)より以前のものも含まれると理解できる。

以上のことから、上原真人は、円勝寺推定地出土軒瓦の一部については、法勝寺で不要となった

瓦を荒廃していた円勝寺域東端に廃棄したと想定され、法勝寺所用瓦であると判断された〔上原1987〕。

最勝寺推定地で出土した軒瓦の中には、最勝寺創建よりも以前と推定できる平安時代後期前葉の軒瓦が約17%含まれる。これらの瓦は、法勝寺金堂・阿弥陀堂・塔・園池などで出土した軒瓦と同範・同紋関係が確認でき、法勝寺隣接地以外の白河地域ではほとんど見られない。このことから、当調査地出土の平安時代後期前葉についても、円勝寺域出土瓦と同様の状況である可能性が高い。

さらに、当地域の発掘調査では二条大路末より北側の地域では平安時代の遺構は確認されておらず、瓦溜が多く見られことから考え、瓦の投棄場所となっていた状況が伺える。

次に最勝寺推定地と円勝寺推定地出土の平安時代後期前葉の瓦を比較しておく。円勝寺推定地の軒瓦全体の出土数量は、軒丸瓦195点・軒平瓦125点で、計320点である。この内、当該期の軒瓦は、軒丸瓦44点・軒平瓦16点、計60点で、全体の19%を占める。産地別の割合は、山城4点(7%)、播磨15点(25%)、大和21点(35%)、備前2点(4%)、不明18点(30%)である〔上原1972〕。

最勝寺推定地に比べ、出土数量は約半数であるが、出土比率は約2割とほぼ同比率である。産地別では、山城産軒瓦は両地域共に数点と少ない。播磨産軒瓦は両地域で出土したが、円勝寺域の方がやや多い。丹波・讃岐産軒瓦は最勝寺推定地では多いが、円勝寺域では見られない。大和産軒瓦は両地域で出土したが、最勝寺推定地が多い。備前産軒瓦は最勝寺推定地では多いが、円勝寺域では少ない。

以上のように、同じ法勝寺隣接地域でも、調査地によって出土数量・状況は異なる。さらに、軒瓦当紋様は、共通した型式のものも見られるが、異なるものもある。

引用・参考文献(引用文献は観察表と共通)

網ほか1989：網 伸也・鈴木久男「平安宮内裏」『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局
1989年

網ほか1995：網 伸也・会下和宏・桜井みどり「成勝寺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1995年

網ほか1996：網 伸也・東 洋一・南 孝雄・百瀬正恒・清藤玲子・桜井みどり・真喜志悦子「左京八条三坊2」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1996年

網2002：網 伸也「瓦類」『平安京右京三条二坊十五・十六町一「齋宮」の邸宅跡一』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 同研究所 2002年

網2008：網 伸也「瓦類」『平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2008-10 同研究所 2008年

安藤1967：安藤文良「讃岐古瓦図録」『文化財協会年報』特別号8 香川県文化財保護協会・香川県教育委員会 1967年

家崎ほか1984：家崎孝治・伊藤 潔・吉村正親「瓦類、平安京左京二条三坊」『京都市内遺跡試掘立会調査

- 概報』昭和58年度 京都市文化観光局・京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 家崎1987：家崎孝治「軒瓦類」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局・京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 池田1998：池田征弘「瓦」『神出窯跡群』兵庫県文化財調査報告第171冊 兵庫県教育委員会 1998年
- 池田ほか1999：池田征弘・森内秀造『久留美・跡部窯跡群一山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告XXX一』兵庫県文化財調査報告第186冊 兵庫県教育委員会 1999年
- 池田2017：池田征弘「瓦」『林崎三本松瓦窯跡群発掘調査報告書』明石市文化財調査報告書第6冊 明石市教育委員会 2017年
- 石井2015：石井明日香「瓦類」『白河街区・尊勝寺跡・岡崎遺跡-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』イビソク京都市内遺跡調査報告第12輯 イビソク 2015年
- 石田1947：石田修一「法勝寺瓦に就いて」『日本史研究』第4号 同研究会 1947年
- 五十川1981：五十川伸矢「瓦類」『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ-白河北殿北辺の調査-』京都大学埋蔵文化財研究センター 1981年
- 市本2001：市本芳三「大阪地域の平安時代後期瓦の様相」『第4回摂河泉古代寺院フォーラム 中世寺院の幕開け-11・12世紀の寺院の考古学的研究-』摂河泉古代寺院研究会 2001年
- 伊藤2013：伊藤 潔「『平安京左京一条三坊十町跡・旧二条城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-13 同研究所2031年
- 上原1972：上原真人「瓦類」・「円勝寺発掘調査団：円勝寺の発掘調査(下)」『佛教藝術84号』毎日新聞社 1972年
- 上原1976：上原真人「京都市動物園爬虫類館建設に伴う法勝寺発掘調査報告・出土遺物」『京都市埋蔵文化財年次報告1974-Ⅱ』京都市文化観光局文化財保護課 1976年
- 上原1978：上原真人「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』13・14号 元興寺文化財研究所 1978年
- 上原1987：上原真人「瀬戸内海を渡ってきた瓦」『大阪湾をめぐる文化の流れ-もの・ひと・みち-』帝塚山考古学研究所 1987年
- 上村1981：上村和直「六勝寺跡、A・B調査区」『六勝寺跡発掘調査概要 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター・京都市埋蔵文化財研究所 1981年
- 上村ほか1987：上村和直・辻 裕司『法勝寺跡発掘調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局・京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 上村1989：上村和直・辻 裕司「尊勝寺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 上村1990：上村和直「尊勝寺跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1990年
- 上村1993：上村和直「平安京左京九条一坊・東寺旧境内Ⅰ」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 上村ほか1996：上村和直・堀内明博・吉村正親「尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報』平成7年度 京都市文化市民局 1996年
- 上村2001：上村和直「瓦類」『仁和寺院家跡(花園宮ノ上町遺跡)』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-1 同研究所 2001年

- 上村ほか2002：平尾政幸・山口 真・上村和直『平安京右京三条一坊三町（右京職）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-3 同研究所 2002年
- 上村2012：上村和直「瓦類」『法住寺殿跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-10 同研究所 2012年
- 上村2015：上村和直「瓦類」『平安京左京九条三坊十町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2013-15』同研究所 2015年
- 上村ほか2015：上村和直・李 銀眞「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-13 同研究所 2015年
- 上村ほか2016：上村和直・松吉祐希「瓦類」『円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-17 同研究所 2016年
- 上村2018：上村和直「西寺・東寺の造営と瓦生産」『古代』第141号 早稲田大学考古学会 2018年
- 植山ほか1983：植山 茂・下條信行・定森秀夫・隴谷 寿『三條西殿跡 平安京跡研究調査報告第7輯』古代學協會 1983年
- 植山1983：植山 茂「瓦類」『平安京左京八条三坊二町』平安京跡研究調査報告第6輯（財）古代學協會 1983年
- 植山1985：植山 茂「瓦類」『平安京左京七条三坊五町』平安京跡研究調査報告第15輯（財）古代學協會 1985年
- 宇垣2009：宇垣匡雅「瓦」『備前国分寺』赤磐市文化財調査報告第3集 岡山県赤磐市教育委員会 2009年
- 内田ほか1995：内田好昭・丸川義広・平方幸雄「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 内田2004：内田好昭「史跡・名勝 嵐山」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2004-7 同研究所 2004年
- 梅原1925：梅原末治「南桑田郡千歳村出雲神社境内發見ノ古瓦」『京都府史跡勝地調査会報告』第6冊 京都府 1925年
- 大矢ほか1981：大矢義明・小森俊寛・永田信一・原山充志『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ』1976年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1981年
- 大矢ほか1983：大矢義明・吉川義彦「内裏外郭跡」『平安京跡調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局・京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 小川1923：小川白楊「法勝寺」『古瓦譜』文星堂 1922年
- 香川県1983：香川県「歴史時代・古瓦」『香川県史』13考古 資料編 香川県 1983年
- 梶川ほか1977：梶川敏夫・木村捷三郎・渡辺和子『六勝寺跡 六盛西店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』六勝寺研究会 1977年
- 柏田2011：柏田有香「法勝寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年
- 柏田2013：柏田由香「平安宮朝堂院跡・聚楽遺跡」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 柏田2014：柏田由香「1・2区瓦類」『平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-5 同研究所 2015年
- 加納2004：加納敬二「瓦類」『平安京左京北辺四坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊 同研究所 2004年

- 加納2008：加納敬二「瓦類」『平安京左京三条二坊十町（堀河院）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-17 同研究所 2008年
- 亀岡市1994：亀岡市文化資料館『丹波国と平安京～都を支えた篠窯跡群～』同資料館 1994年
- 河野2004：河野凡洋「瓦類」『平安京左京二条三坊一町』京都文化博物館調査研究報告第16集 同博物館 2004年
- 木村1976：木村捷三郎「法勝寺金堂跡発掘調査概要・出土遺物」『京都市埋蔵文化財年次報告1974-Ⅱ』京都市文化観光局文化財保護課 1976年
- 木村1990：木村捷三郎「瓦」『仁和寺境内発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊 同研究所 1990年
- 桐山2005：桐山秀穂『六角堂第3次・第4次調査』平安京跡発掘調査報告第21輯（財）古代学協会 2005年
- 高1998：高 正龍『南ノ庄田瓦窯跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第18冊 同研究所 1998年
- 瀬瀬2018：瀬瀬文佳「瓦類」『神出窯跡群発掘調査報告書』神戸市教育委員会 2018年
- 小松ほか1998：小松武彦・吉村正親・小檜山一良「平安京右京一条四坊・法金剛院境内」『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1998年
- 小森ほか1982：小森俊寛・原山充志『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』1977～1981年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982年
- 近藤2014：近藤章子『白河街区・法勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-6 同研究所 2014年
- 近藤ほか2005：近藤奈央・木下保明『白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-4 同研究所 2005年
- 佐々木1981：佐々木英夫「瓦類」『平安京左京五条三坊十五町』平安京跡研究調査報告第5輯（財）古代学協会 1981年
- 定森1995：定森秀夫『平安京左京六条三坊七町』京都文化博物館研究調査報告第11集 京都文化博物館 1995年
- 市文観1976 a：京都市文化観光局文化財保護課「法勝寺金堂跡第Ⅱ次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告-1975』同保護課 1976年
- 市文観1976 b：京都市文化観光局文化財保護課「平安宮真言院跡推定地発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告-1975』同保護課 1976年
- 市文観1976 c：京都市文化観光局文化財保護課「平安宮会昌門跡発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告-1975』同保護課 1976年
- 市埋文1980：京都市埋蔵文化財研究所編『板東善平收藏品目録』同研究所 1980年
- 市埋文1996：京都市埋蔵文化財研究所編『木村捷三郎収集瓦図録』同研究所 1996年
- 市埋文1997：京都市埋蔵文化財研究所編『京都嵯峨野の遺跡-広域立会調査による遺跡調査報告-』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 同研究所 1997年
- 鈴木2016：鈴木久史「岡崎遺跡・法勝寺跡」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年
- 清野1975：清野紀子「瓦」『栢杜遺跡調査概報』鳥羽離宮跡調査研究所1975年
- 高橋ほか2012：高橋 潔・家原圭太「法勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京

都市文化市民局 2012年

- たなか1966：たなかしげひさ「教王護国寺の彫刻群の研究—付「左寺」の字瓦を出土するひがし寺の瓦窯—」『日本歴史考古学論叢』 1966年
- 田中2003：田中利津子『白河街区・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-17 同研究所 2003年
- 辻1990：辻 裕司「平安宮中務省（2）」『平安京跡発掘調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 辻2007：辻 裕司「法勝寺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-9』同研究所 2007年
- 出宮1975：出宮徳尚「瓦」『幡多廃寺発掘調査報告』岡山市遺跡調査団・岡山市教育委員会文化課 1975年
- 常磐井1980：常磐井智行「瓦、平安京跡（左京内膳町）昭和54年度 発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』1980第3分冊 京都府教育委員会 1980年
- 長戸ほか2000：長戸満男・小檜山一良「平安京左京六条三坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 中村1990：中村 浩『久留美毛谷—古窯跡群等の発掘調査報告—』久留美毛谷古窯跡群埋蔵文化財調査会 1990年
- 奈文研1959：奈良国立文化財研究所編『興福寺食堂発掘調査報告』同研究所學報第七冊 1959年
- 奈文研1961：奈良国立文化財研究所編「尊勝寺発掘調査報告—京都会館建設地の調査—」『平城宮跡第一次 伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告』同研究所學報第十冊 同研究所 1961年
- 布川2009：布川豊治「瓦類」『平安京左京八条三坊四・五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-7 同研究所 2009年
- 浜中ほか2003：浜中邦弘・西田倫子「軒瓦」『史跡及び名勝 平等院庭園保存整備報告書』平等院 2003年
- 尾籐ほか1995：尾藤徳行・吉村正親「最勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
- 尾籐2005：尾藤徳行「瓦類」『平安京左京六条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-8 同研究所 2005年
- 平尾ほか1982：平尾政幸・辻 純一「左京二条二坊（2）高陽院跡」『平安京跡発掘調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局・京都市埋蔵文化財研究所 1982年
- 平尾ほか2002：平尾政幸・山口 眞『平安京右京六条一坊・左京右京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所 発掘調査概報2002-6 同研究所 2002年
- 平尾ほか2003：平尾政幸・山口 眞『平安京左京四条二坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-5 同研究所 2003年
- 枚方ほか1991：平方幸雄・菅田 薫・高橋 潔「勸修寺旧境内」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 平博1977：平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣 1977年
- 堀内2008：堀内明博「平安京左京九条三坊一町跡」『平安京跡研究調査報告第22輯』（財）古代學協會 2008年
- 松井1984：松井忠春「押小路殿跡第2次調査」『平安京跡研究調査報告第12輯 押小路殿跡・平安京左京三条三坊十一町』（財）古代學協會 1984年
- 松本1986：松本敏三『讃岐陶邑古窯址群の瓦窯址について』第24回帝塚山大学考古学研究会発表資料 1986年

- 南1983：南 博史「出土瓦」『平安京土御門烏丸内裏一左京一条三坊九町一』平安京跡研究調査報告第10輯
(財) 古代學協會 1983年
- 南出ほか2002：南出俊彦・吉村正親・尾藤徳行「平安宮朝堂院・豊楽院跡」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 森ほか1995：森 郁夫・鈴木久男・上村和直・前田義明「瓦」『新東寶記 東寺の歴史と美術』東寺 1995年
- 安井1960：安井良三「篠町A號瓦窯址」『亀岡市史』上巻 亀岡市 1960年
- 藪中1991：藪中五百樹「平安時代における興福寺の造営と瓦」『佛教藝術』第194号 毎日新聞社 1991年
- 山崎1987：山崎信二「瓦塼」『薬師寺発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第45冊 同研究所 1987年
- 山崎1999：山崎信二「瓦」『興福寺 第1期境内整備にともなう発掘調査概報I』興福寺 1999年
- 吉川2007：吉川義彦『平安京跡発掘調査報告書 左京二条四坊七町』関西文化財調査会 2007年
- 吉村1993：吉村正親「栗栖野瓦窯跡の調査(その2)」『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年

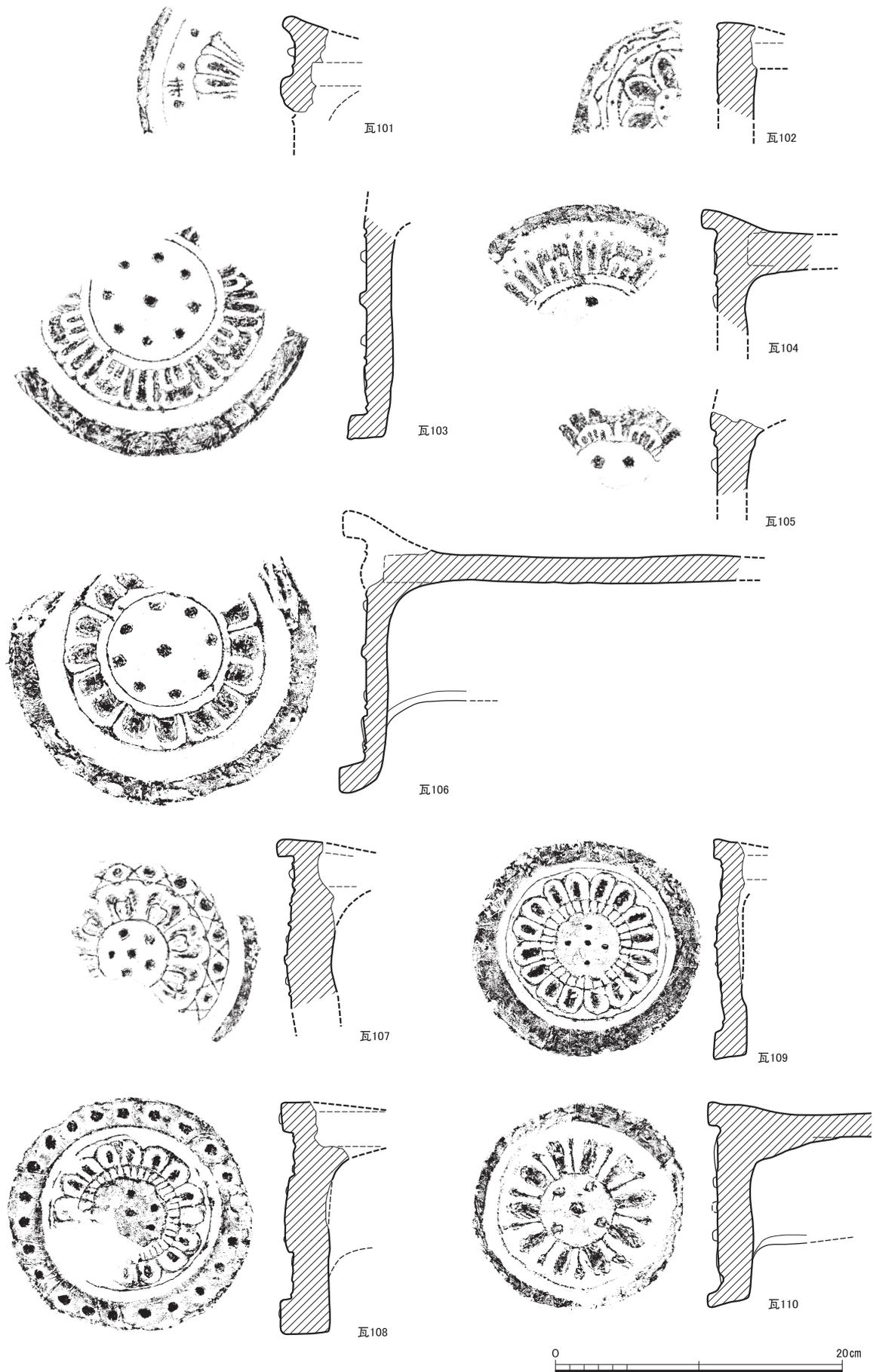


図2 軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）

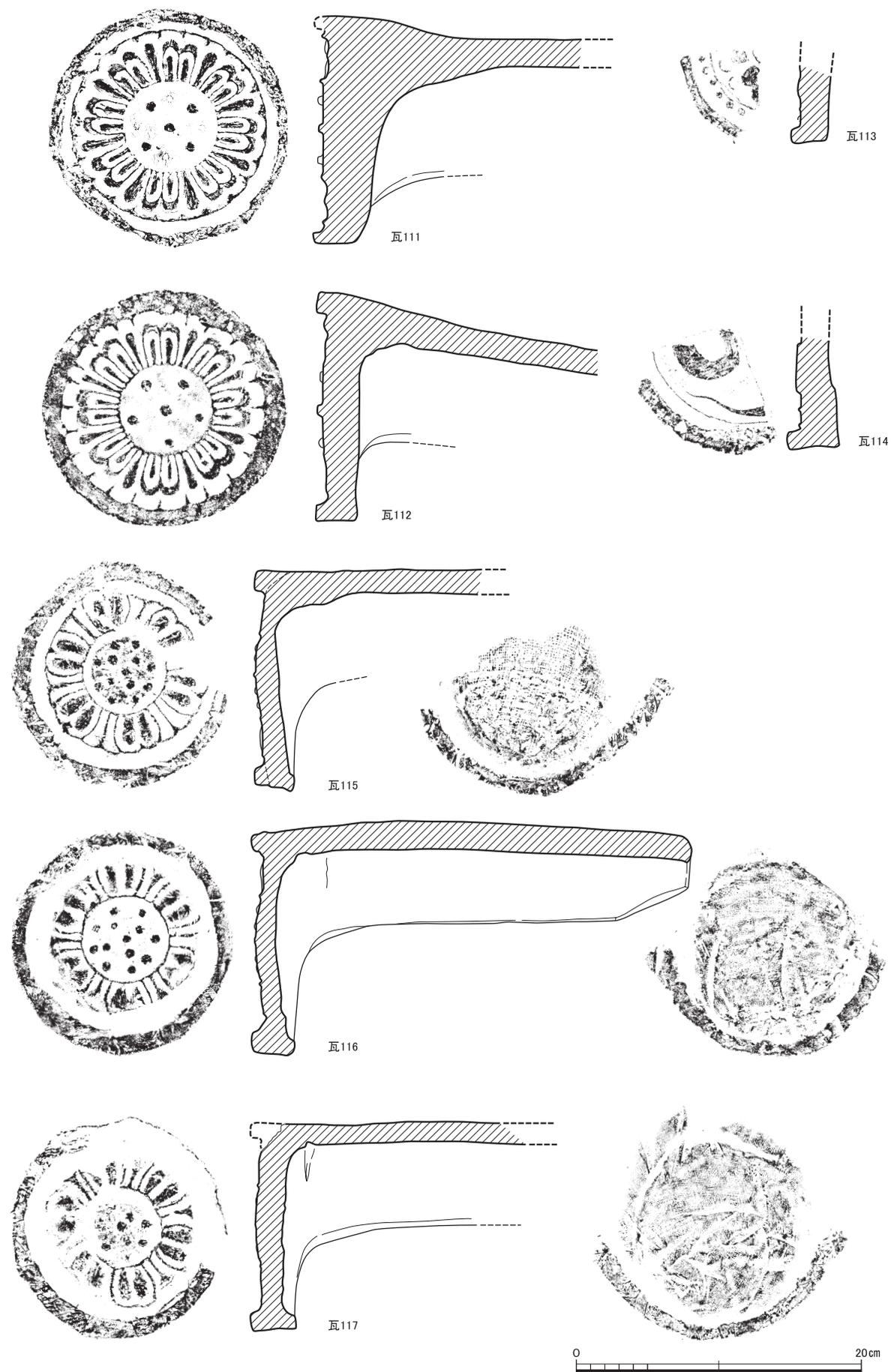


図3 軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

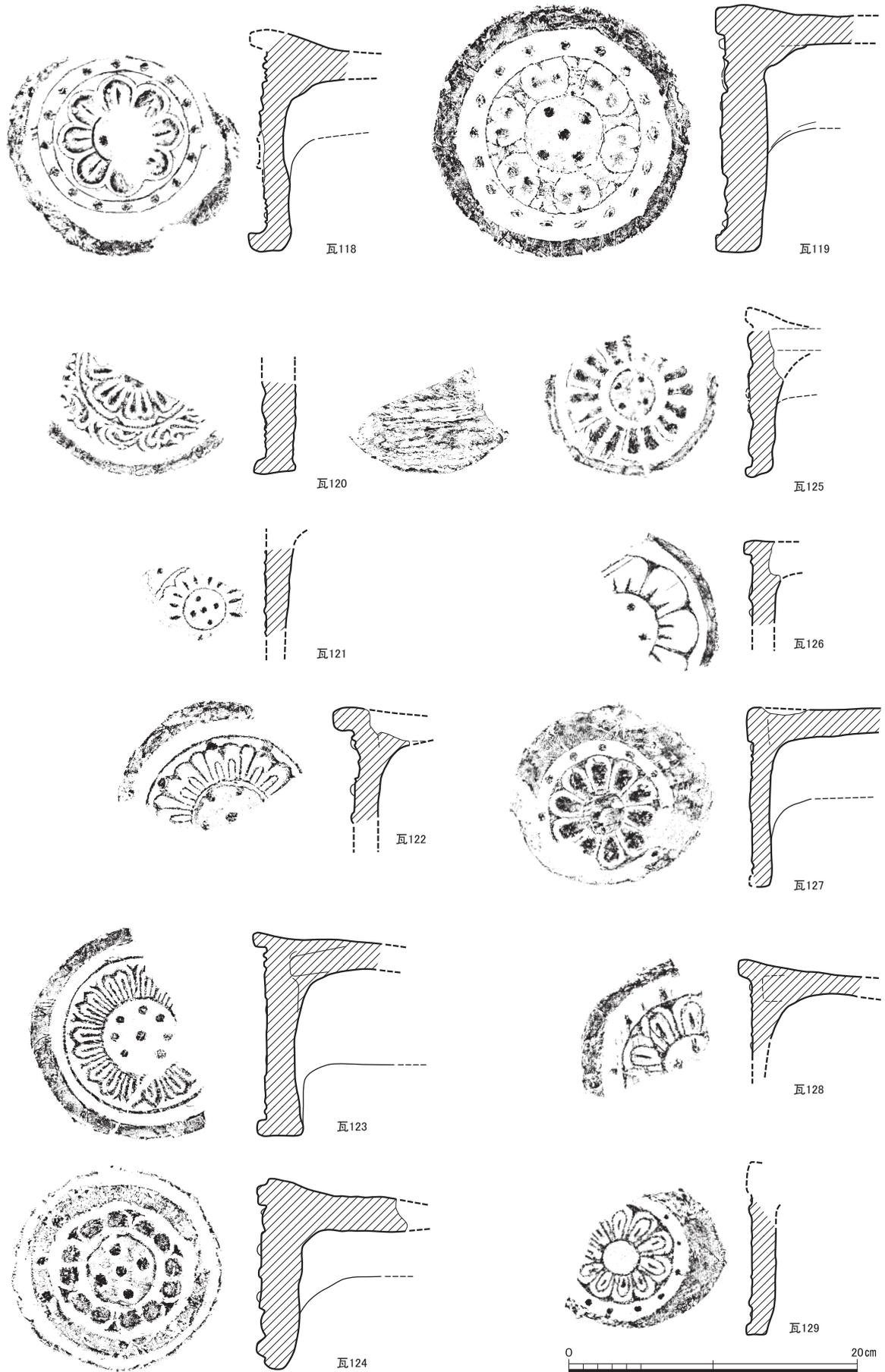


図4 軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）

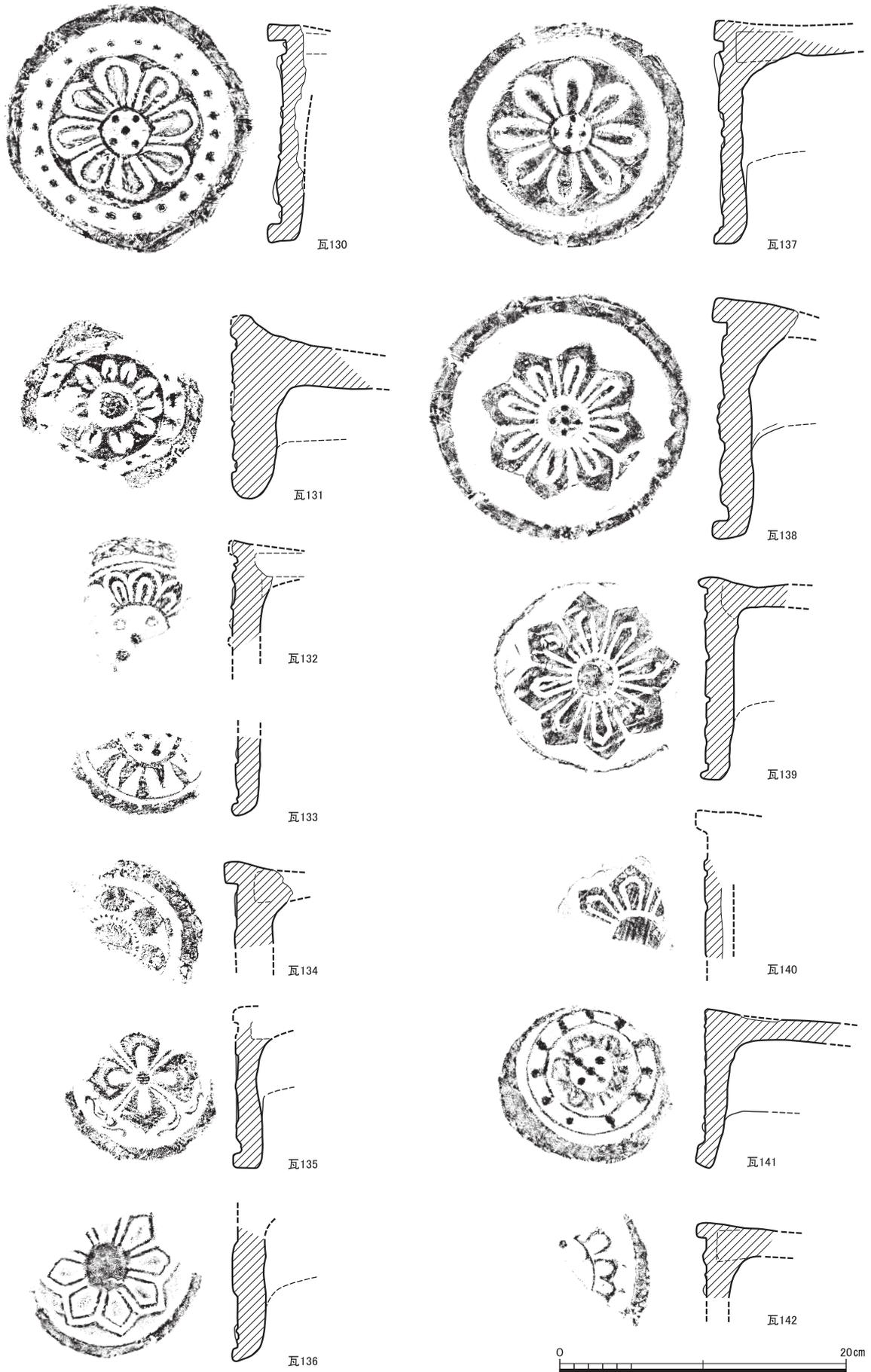


图5 軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

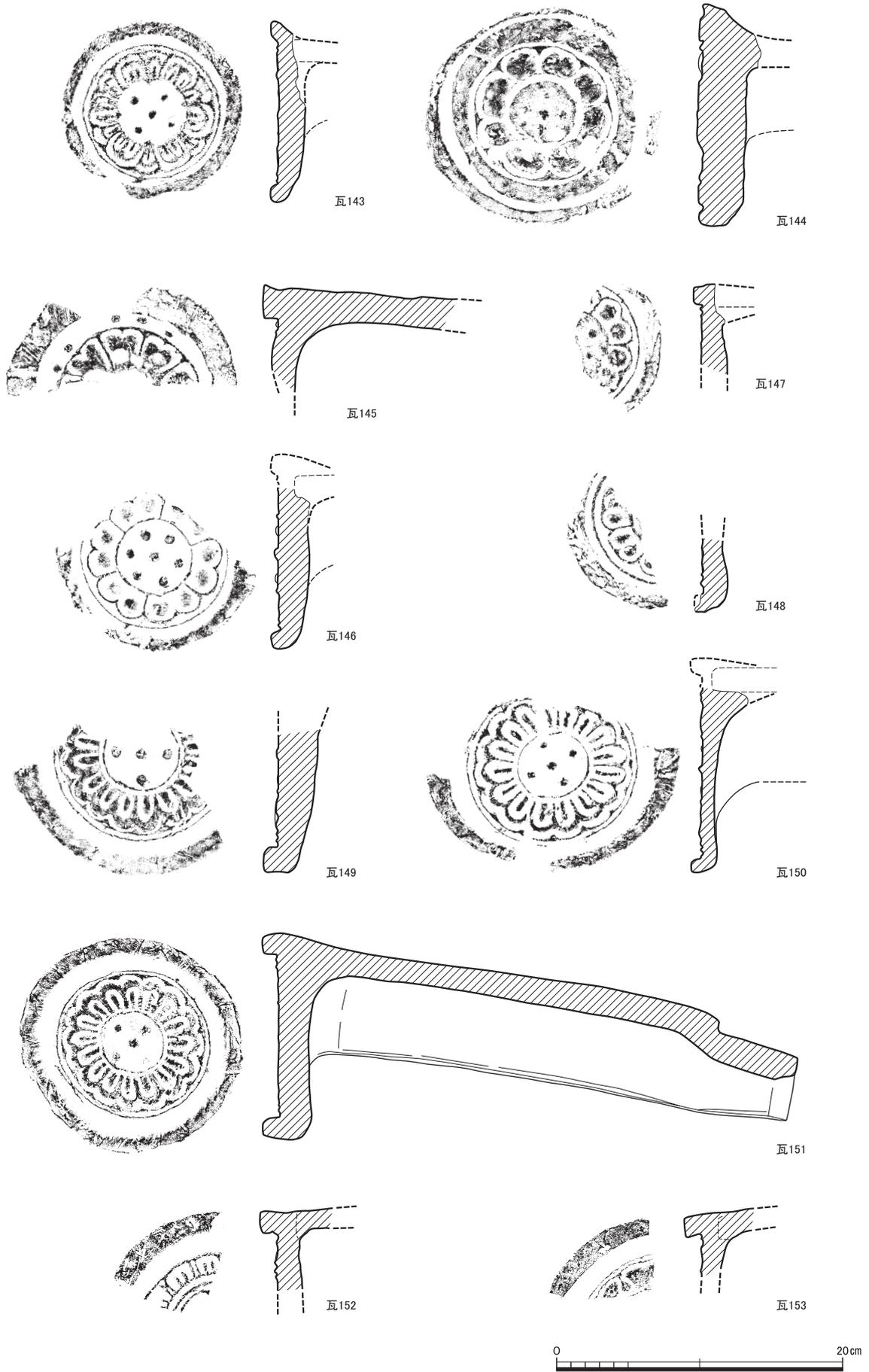


図6 軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

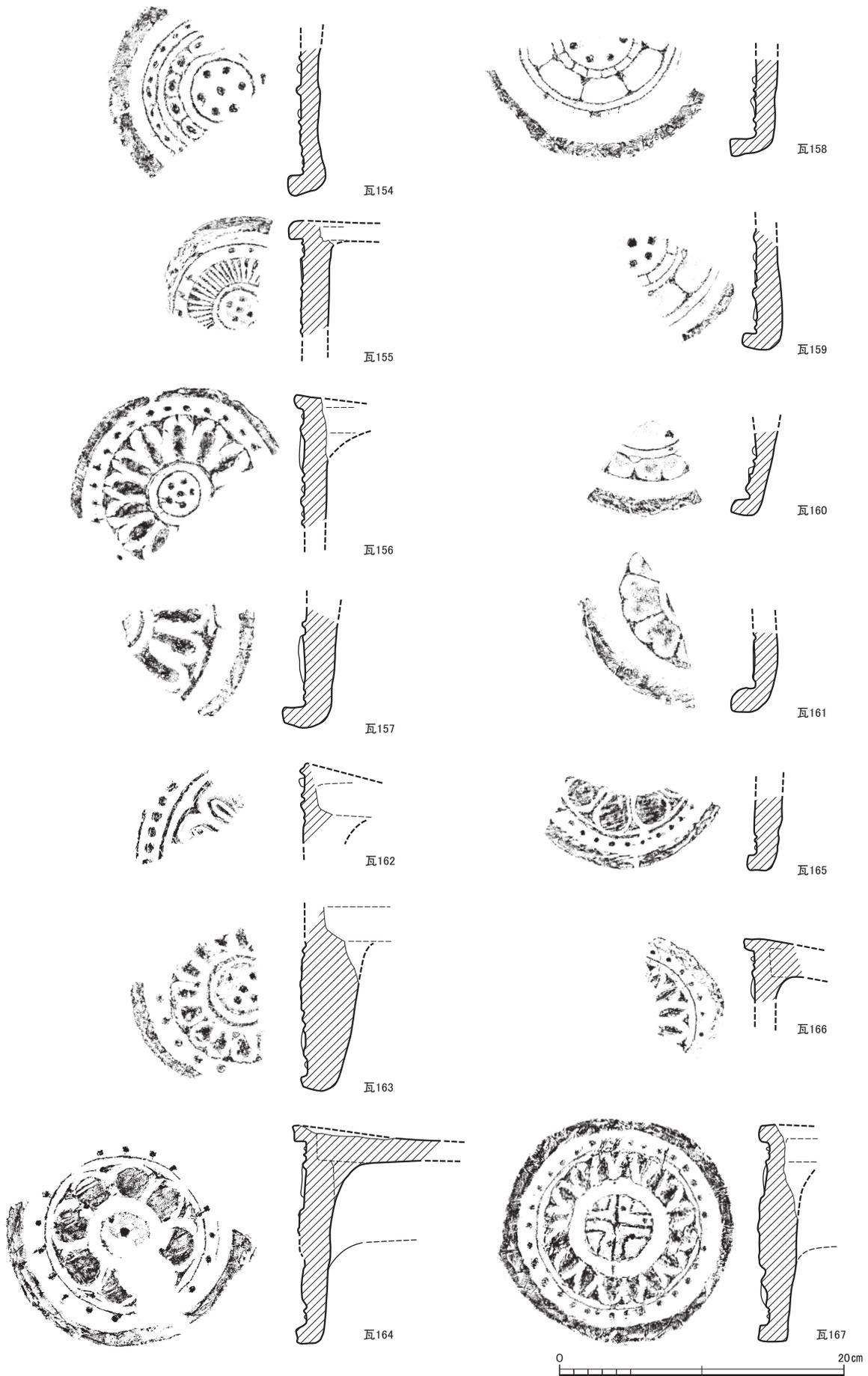


图7 軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

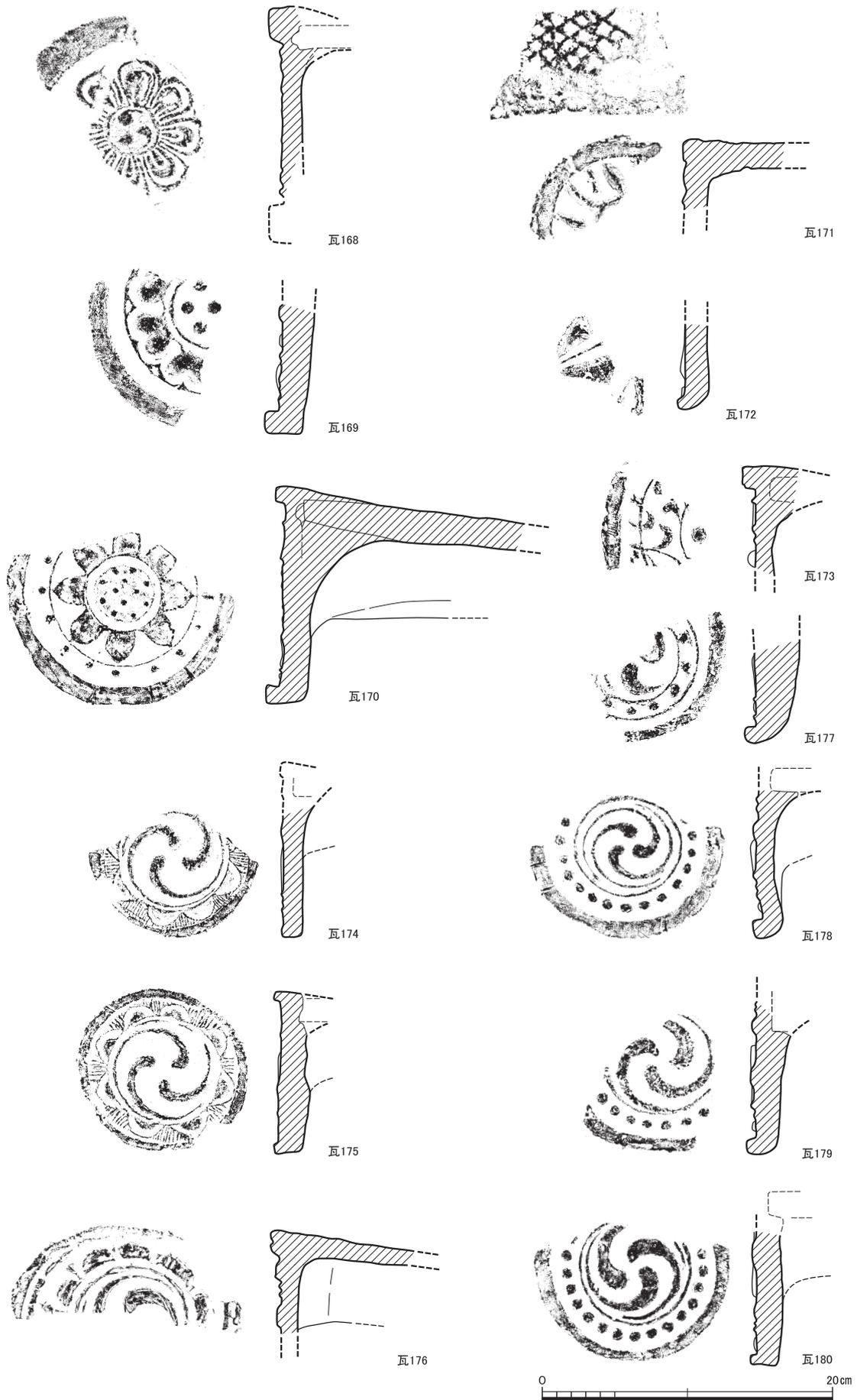


図8 軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

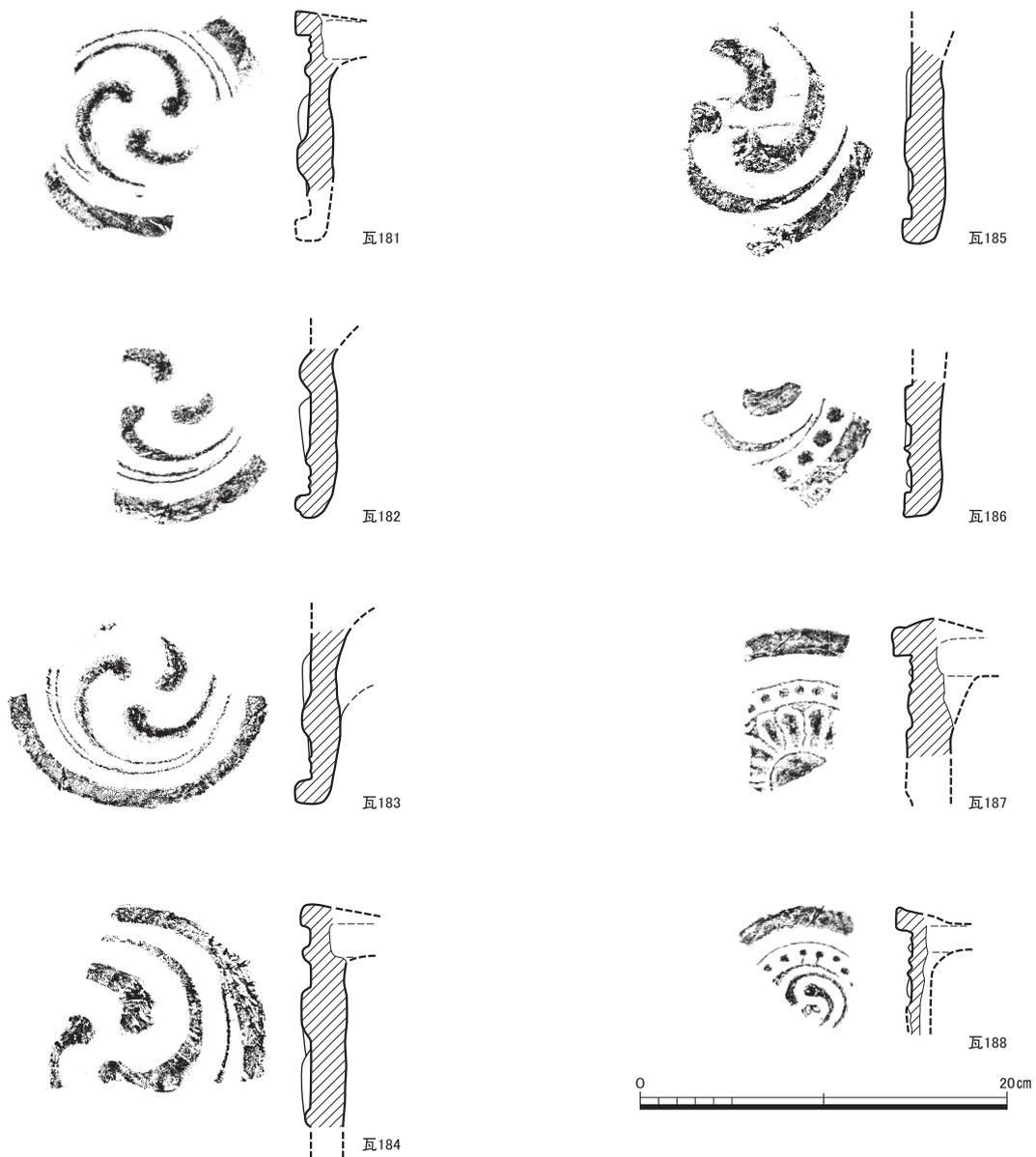


图9 軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）

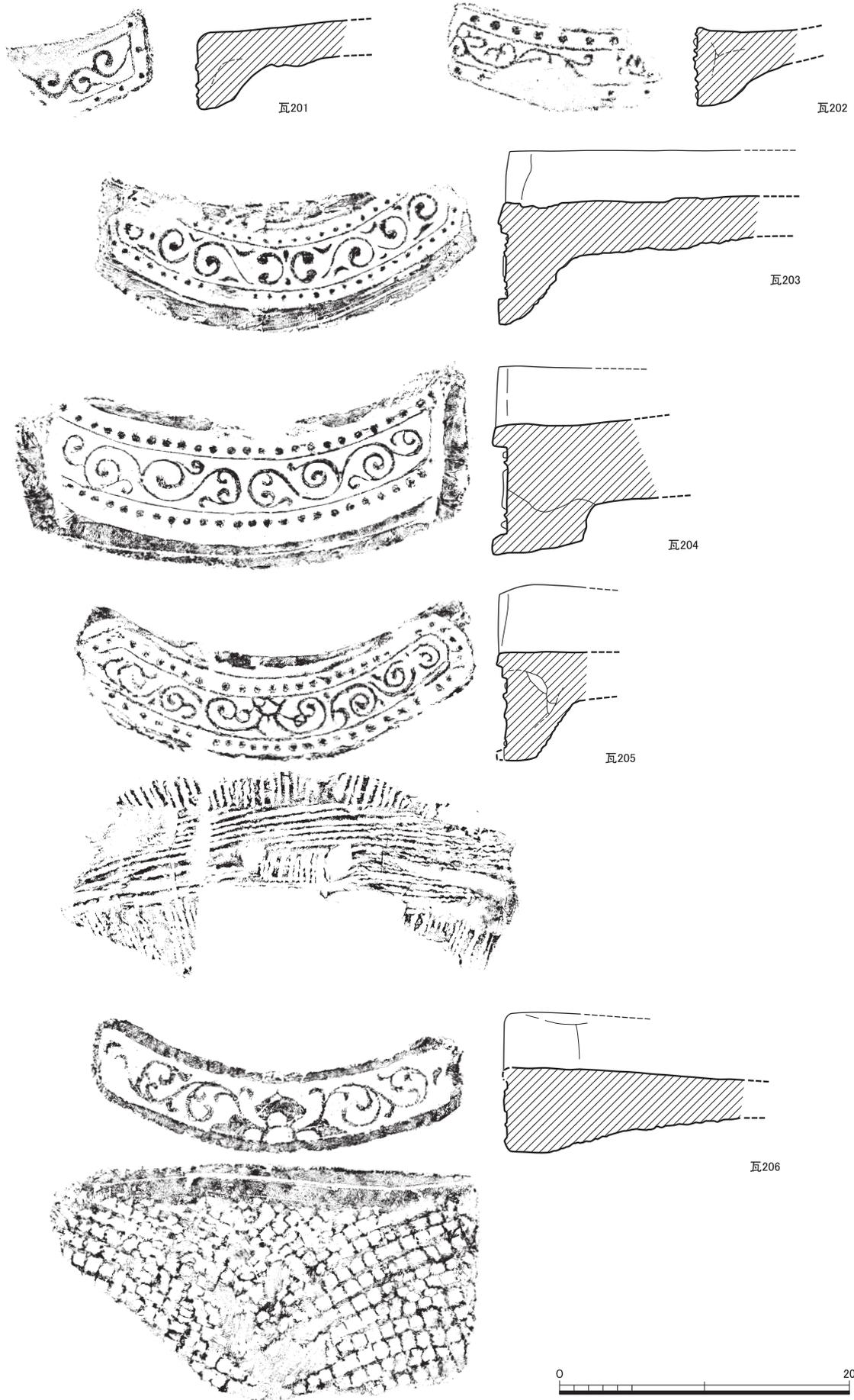


図10 軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

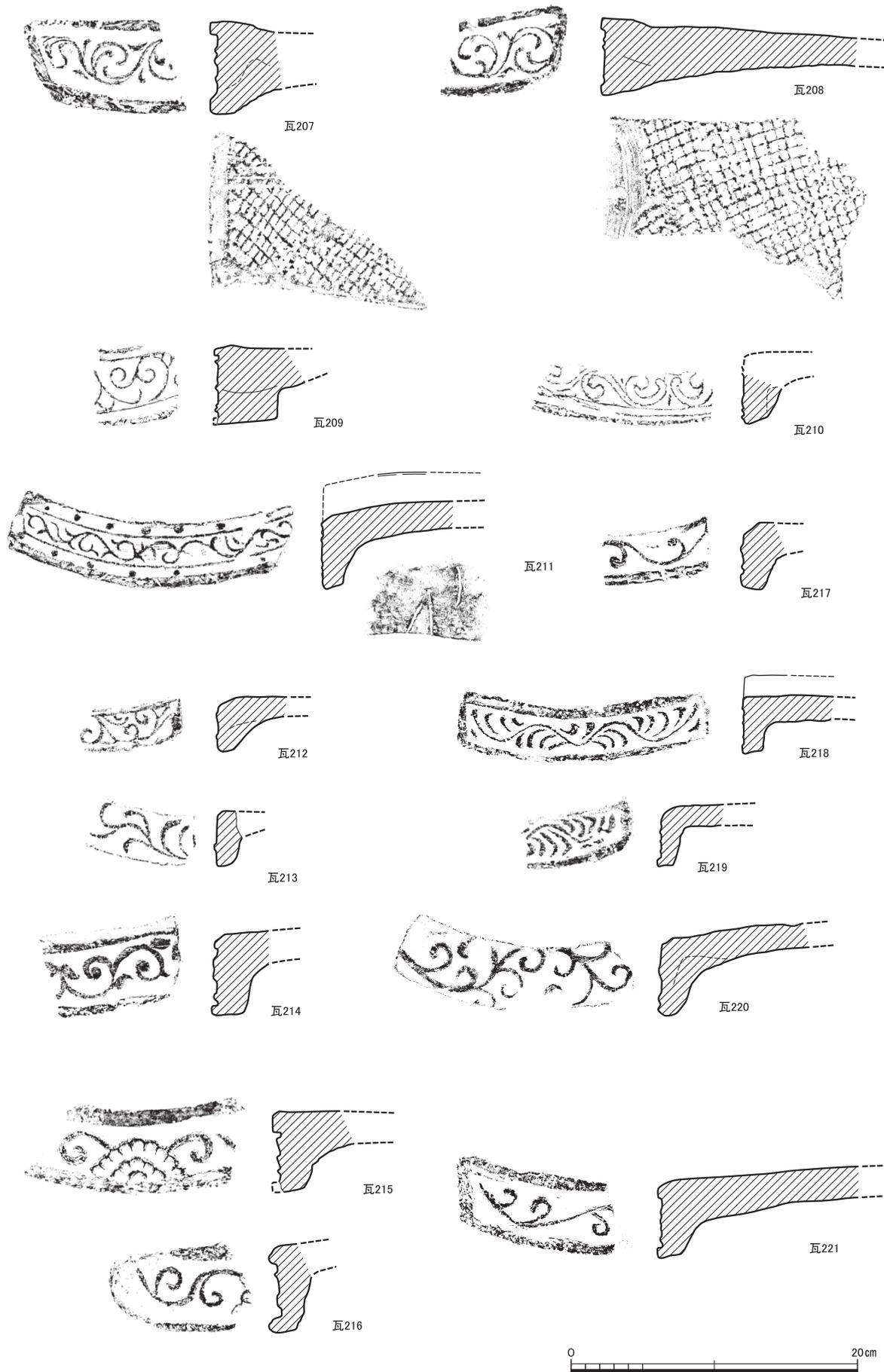


図11 軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

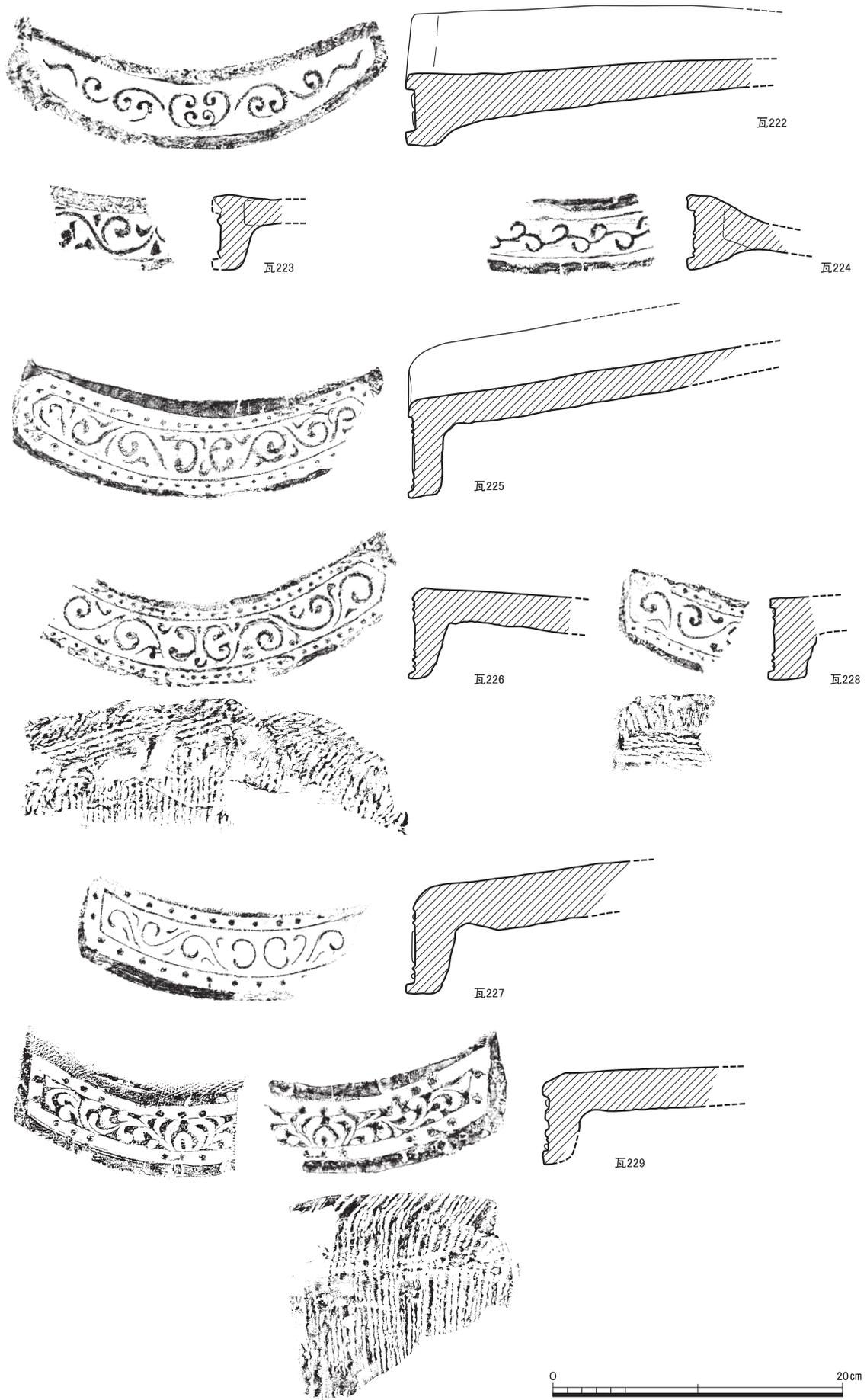


図12 軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

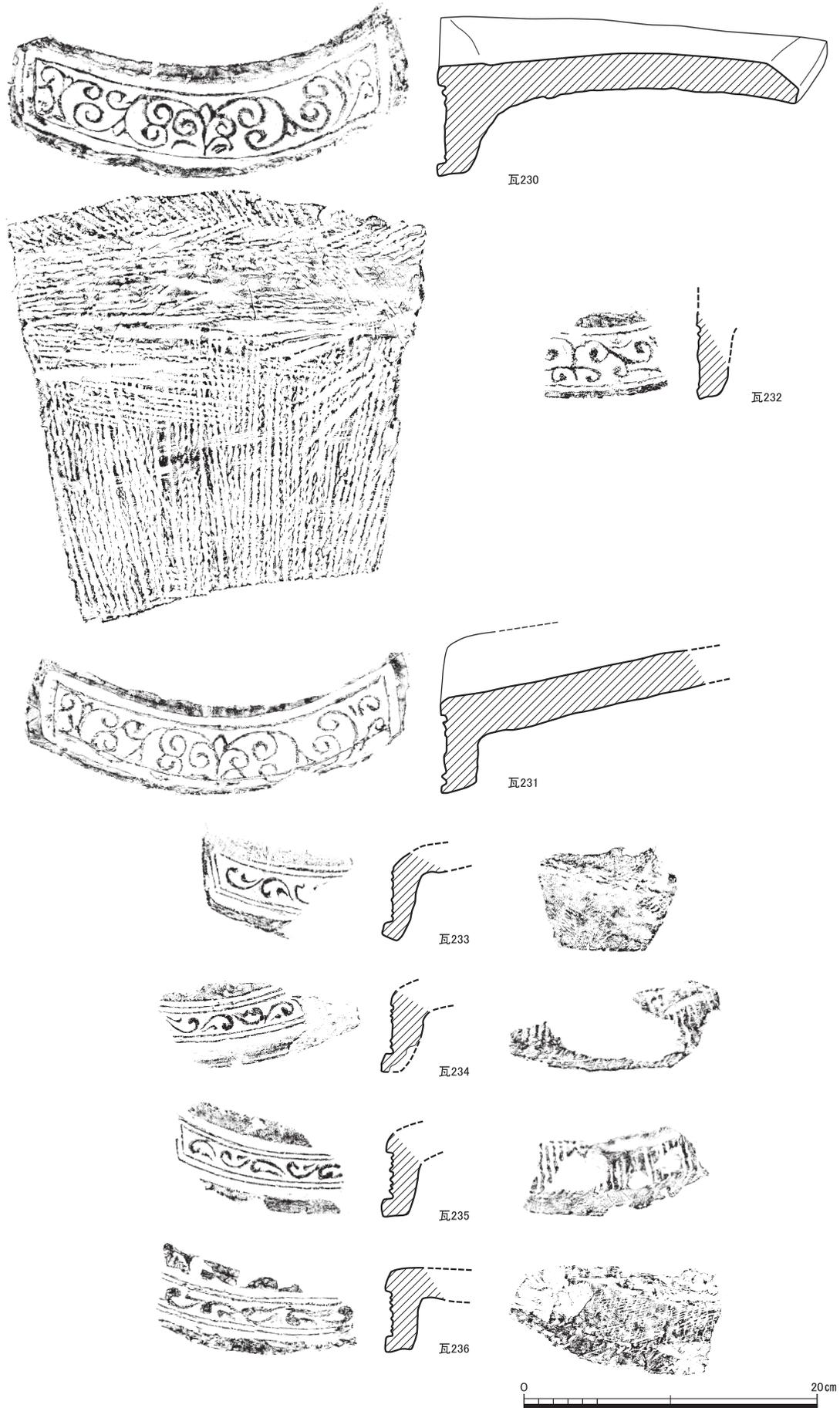


图13 軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

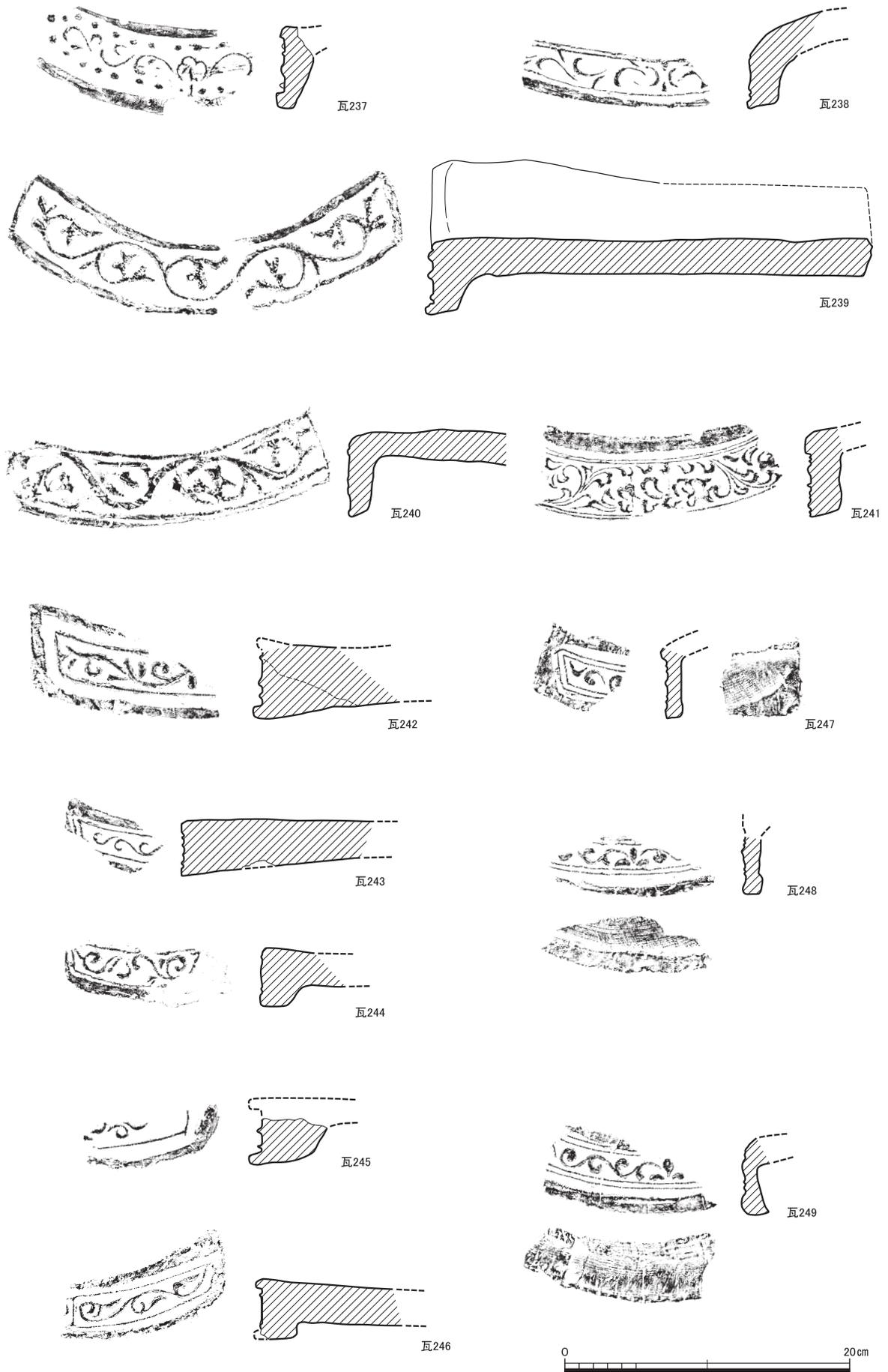


図14 軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

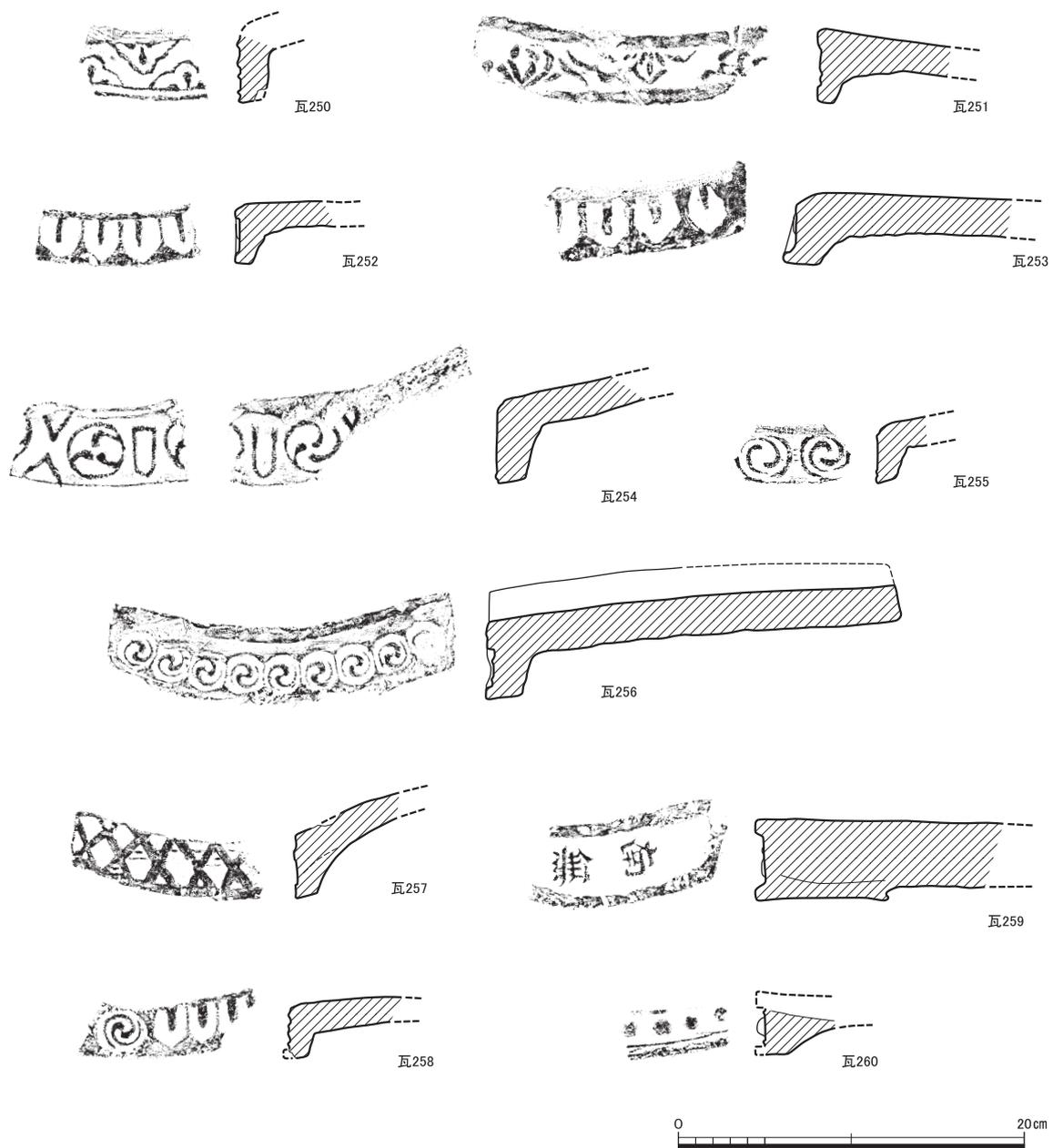


図15 軒平瓦拓影及び実測図（1：4）

表3 軒丸瓦観察表

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
101	複弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+6。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。間弁はT字形で弁端に接する。外区に珠紋16、珠紋間の左右に「西」・「寺」銘配す。周縁は素紋直立縁で、内側は傾斜し、下縁に段あり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半縦ナデ。範はA型。	9世紀前葉。河内牧野阪瓦窯産。西寺(平博1977)20、西寺(上村2018)SJ103と同範。牧野阪瓦窯(たなか1966)第7図と同範。	計1点出土。
102	単弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+8。蓮弁は互いに接し、子葉やや盛り上がる。外区に界線、珠紋16、圏線。外側に左回り唐草紋を配す。周縁は素紋直立縁で、部分的に残存。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半ナデ、下裏面ナデ。裏面平坦。	11世紀中葉。山城産。平安宮朝堂院(平博1977)236、平安京左京三条三坊十町(松井ほか1984)14-3と同紋。法勝寺金堂回廊(上村ほか1987)瓦4と同範。	計1点出土。
103	複弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+8。蓮弁は分離し、弁端は山形。蓮弁内は凹み、子葉配す。間弁は棒状で単弁。蓮弁・子葉・間弁は盛り上がる。蓮弁・間弁の外側に輪郭線あり。外区なし。周縁は素紋直立縁。範キズ少しあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面横方向ナデで糸切痕跡残存。裏面平坦。範はB型。	11世紀後葉。播磨産。法勝寺池(上原1976)図20-1と同紋。円勝寺(上原1972)ER001A型式・円勝寺(上村ほか2015)瓦3と同範。神出窯(瀧瀬2018)丸2401型式と同紋。	計2点出土。
104	103と同範で、外区を縮小。周縁内側に蓮弁・間弁の輪郭線の端部が残存。周縁は素紋直立縁。外区を縮小する。輪郭線の端部のみ周縁内側に残存。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ、裏面平坦。丸瓦凸面ナデ、凹面横ナデ。	11世紀後葉。播磨産。法勝寺池(近藤2014)瓦4と同紋。円勝寺(上原1972)ER001C型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦4と同範。	計1点出土。
105	複弁8弁蓮華紋。凹中房。蓮子は1+8。蓮弁は分離し、弁端は山形。蓮弁内は凹み、子葉を配し、端部山形。間弁は単弁。蓮弁・間弁上面は盛り上がる。瓦当面離れ砂付着。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当裏面ナデ。裏面平坦。	11世紀後葉。播磨産。法勝寺金堂(木村1976)図7-3と同紋。円勝寺(上原1972)ER016型式と類似。	計1点出土。
106	複弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+8。蓮弁は分離し、子葉は盛り上がる。間弁は連続。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面横方向ナデ。丸瓦凸面縦平行タキ後ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。裏面平坦。範はB型。	11世紀後葉。播磨産。円勝寺(上原1972)ER017型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦63と同紋。神出窯(瀧瀬2018)丸2001と同紋。	計1点出土。
107	複弁8弁蓮華文。圏線中房、蓮子は1+5。蓮弁は分離し、子葉は凸線でハート形。間弁は三角形で、界線に接する。外区に界線・珠紋・圏線。珠紋間にX字形配し、間弁と連結する。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半ナデ、下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。平安宮(市理文1980)143と同紋。円勝寺(上原1972)ER008型式と同範。興福寺(藪中1991)VI丸C5、薬師寺(山崎1987)77と同紋。	計1点出土。
108	複弁8弁蓮華文。凸中房で花形、周囲に蓋あり。蓮子は1+8。蓮弁は幅広く互いに接し、子葉あり。外区に界線。周縁は直立縁で、上面に密な珠紋22。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、下半ナデ、裏面横方向ナデ。裏面平坦。範はB型。	11世紀後葉。大和産。平安宮真言院(市文観1976b)22-4・平安宮会昌門(市文観1976c)26-2と同紋。法成寺(市理文1996)873と同紋。法勝寺池(近藤2014)瓦10と同紋。円勝寺(上原1972)ER006型式と同紋。平等院(浜中ほか2003)NM024と同紋。興福寺(藪中1991)IV丸E6、薬師寺(山崎1987)36-65と同紋。	計4点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
109	内区は108と同紋で、蓮子は1+4。外区に界線。周縁は直立縁で、上面は素紋。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、下半横ナデ、裏面下半横方向ナデ。裏面中央凹む。範はB型。	11世紀後葉。大和産。平安宮真言院(市文観1976b)22-14、円宗寺(市埋文1997)72と同紋。法勝寺阿弥陀堂(高橋ほか2012)26、尊勝寺(奈文研1961)29型式と同紋。円勝寺(上原1972)ER046型式と同範。興福寺(藪中1991)IV丸E5と同紋。	計3点出土。1995年報告、図46-2。
110	単弁10弁蓮華紋。圏線中房。蓮子は1+4で、圏線に接する。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。蓮弁は単独。外区なし。周縁は素紋直立縁で、内側に段あり。瓦当面範キズ多い。	瓦当成形不明。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面下半横方向ナデ、上半縦ナデ。裏面平坦。丸瓦凸面縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。	11世紀後葉。大和産。興福寺(藪中1991)VI丸D3と同紋。	計2点出土。1995年報告、図46-4。
111	複弁8弁蓮華紋。凸中房で、周囲が高くなる。蓮子は1+4。蓮弁は分離し、弁凹み、子葉あり。間弁は棒状で単独。蓮弁・間弁上面盛り上がる。蓮弁輪郭線は連続。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面横方向ナデ。裏面平坦。丸瓦凸面縦ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。範はB型。	11世紀後葉。大和産。平安宮朝堂院(南出ほか2002)16、平安京右京三条二坊十六町(網2002)30と同紋。平等院(浜中ほか2003)NM17と同紋。興福寺(藪中1991)VI丸A5・薬師寺(山崎1987)57と同紋。	計1点出土。1995年報告、図46-6。
112	複弁8弁蓮華紋。凸中房で、蓮子は1+5。蓮弁は分離し、子葉あり。間弁は棒状で単独。蓮弁・間弁上面盛り上がる。周縁は素紋直立縁で、周縁内側が蓮弁輪郭線となる。	瓦当成形不明。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面不定方向ナデ、裏面平坦。丸瓦凸面縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。範はB型。	11世紀後葉。大和産。平安宮真言院(市文観1976b)22-5と同紋。平安京左京二条二坊九町(平尾ほか1982)26と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦6、平等院(浜中ほか2003)NM018Aと同紋。興福寺食堂(奈文研1959)35と同紋。	計24点出土。
113	単弁4弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+8。蓮弁は山形で分離する。間弁はV形で単独。外区に界線・密な珠紋帯。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	11世紀後葉。大和産。平安京左京四条二坊十四町(平尾ほか2003)瓦12、円宗寺(市埋文1997)73、平等院(浜中ほか2003)NM041と同紋。興福寺(藪中1991)VI丸J2・薬師寺(山崎1987)89と同紋。	計1点出土。
114	内区に梵字「アーク」配す。文字は細字体、上面は平坦。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ。裏面周縁は高く、中央凹む。中央はナデ、縁部はケズリ平滑。	11世紀後葉。大和産。法勝寺塔(柏田2011)瓦1~9と類似。興福寺(藪中1991)VI丸K1、薬師寺(山崎1987)94と類似。	計1点出土。
115	複弁6弁蓮華紋。半球状中房で、圏線巡る。蓮子は1+4+8。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。蓮弁はT形で、弁端に接する。外区なし。周縁は素紋直立縁。瓦当裏面下半に低い土堤あり。	瓦当部筒形一本造り。瓦当部と筒部は共土。周縁は貼り付け。瓦当側面上半ナデ、下半横ナデ、裏面布目、絞りなし。裏面周囲ナデ。土堤上面横ケズリ後横ナデ。丸瓦凸面ナデ、凹面裏面から連続した布目。	11~12世紀。備前産。広隆寺(平博1977)149と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦8と同紋。備前国分寺(宇垣2009)図154-87・88と同紋。	計11点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
116	115と同範。内区蓮弁・間弁の周囲にナデを施し、円周状に凹む。瓦当裏面下半に低い土堤あり。	115と同様の成形・調整技法。瓦当裏面下端の土堤は低く、上面横ケズリ。丸瓦凸面縦ナデ、凹面裏面から連続した布目、狭端面ナデ。狭端面内側をケズリ、面取りを施す。	11～12世紀。備前産。	計2点出土。
117	115と同範。瓦当裏面下半土堤が、高く残存する。	瓦当部成形は115と同様。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ。裏面布目、絞りなし、布折り目痕跡あり。土堤上面横ケズリ。丸瓦凸面不定方向ナデ、凹面裏面から連続した布目、側面縦ケズリ。裏面と丸瓦との境界に一条の隙間あり。	11～12世紀。備前産。	計2点出土。
118	単弁8弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+6。蓮弁は分離し、盛り上がる。子葉は棒状。蓮弁周囲に輪郭線あり。外区に界線・珠紋16・圏線。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面オサエナデ。丸瓦凸面縦ナデ、凹面ナデ、側面縦ナデ。	11世紀後葉。産地不明。平安京左京北辺四坊(加納2004)93-2、左京二条三坊一町(河野2004)B1054と同紋。円勝寺(上原1972)ER031型式と同紋。	計1点出土。
119	複弁6弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+4。蓮弁は上下2重で、下の蓮弁は間弁状となる。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。蓮弁は界線と接する。外区に珠紋17。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面上半・下半横ナデ、裏面不定方向ナデのナデ。裏面平坦。丸瓦凸面ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。範はB型。	11～12世紀。産地不明。広隆寺(市埋文1997)135と同紋。尊勝寺(奈文研1961)40型式と類似	計5点出土。
120	複弁6弁蓮華文。凸中房、蓮子は1+6。蓮弁は互いに接し、子葉あり。間弁はV字形で、界線に接する。外区に界線、外側に左回り陰刻唐草廻る。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ。裏面上半ナデ、下半横方向縄タタキ。裏面平坦。範はA型。	11～12世紀。讃岐産。平安京左京五条三坊十五町(佐々木1981)23-1と同紋。白河(田中2003)65と同紋。北条池南岸窯(香川県1983)154・庄屋原窯(安藤1967)135と同紋。	計2点出土。
121	複弁8弁蓮華文。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、子葉あり。外区に界線・珠紋16・圏線。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当裏面ナデ。裏面平坦。	12世紀前葉。山城産。平安京左京一条三坊九町(南1983)2、左京三条三坊(家崎ほか1984)59と同紋。尊勝寺(奈文研1961)8型式と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦14と同紋。栗栖野窯(市埋文1996)56と同紋。	計1点出土。
122	複弁8弁蓮華紋。凸中房で、縁部に圏線あり。蓮子は1+5。蓮弁は分離。蓮弁は凹形で子葉は凸線。間弁は弧線で、弁端に連結。弁端と界線間に珠紋9を配す。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(上原1972)ER002型式と同紋。栗栖野窯(市埋文1996)57と同紋。	計1点出土。
123	複弁9弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+8。蓮弁は剣頭状で、分離。間弁はY字形で単独。蓮弁・子葉・間弁は凸線。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半・下半横ナデ、裏面ナデ。裏面若干凹む。丸瓦凸面縦ナデ、凹面ナデ、側面縦ナデ。範はB型。	12世紀前葉。山城産。平安京左京二条二坊九町(平尾ほか1982)25、東寺(森ほか1995)53と同紋。尊勝寺(奈文研1961)20型式と同紋。円勝寺(上原1972)ER019型式と同範。円勝寺(上村ほか2015)瓦29と同紋。	計5点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
124	複弁6弁蓮華紋。凸中房で中央やや凹む。蓮子は1+4。蓮弁は分離し、盛り上がる。間弁は三角形で単独。周縁は直立縁で上面に珠紋配す。瓦当径が周縁より大きい。	瓦当成形不明。瓦当側面上半縦ナデ、下半ナデ、裏面オサエナデ。裏面盛り上がる。丸瓦凸面縦縄タタキ後縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。範はA型。	12世紀。山城産。円勝寺(上原1972)ER025型式と類似。	計1点出土。
125	複弁8弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。間弁は単独。外区に界線。周縁は素紋直立縁。範キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。範はB型。	12世紀。山城産。法勝寺池(近藤2014)瓦1と同紋。	計1点出土。
126	複弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、子葉は3角形。間弁は連続。外区なし。周縁は素紋直立縁。内区蓮弁に2本線の範キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。白河(市埋文1996)545、尊勝寺(奈文研1961)23A型式と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦24と同範。	計9点出土。
127	単弁10弁蓮華紋。凸中房、蓮子は0+3。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。間弁は連続。外区に粗い珠紋12。周縁は素紋直立縁で、幅広い。瓦当面は楕円形。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、下半横ケズリ。裏面縦ナデ、下縁横ケズリ。丸瓦凸面縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。範はB型。	12世紀。山城産。平安京左京二条四坊七町(吉川2007)446、左京六条三坊十二町(大矢ほか1981)No.61-81左京八条三坊四町(布川2009)瓦11と同紋。法勝寺塔(柏田2011)瓦28と同紋。	計1点出土。
128	単弁9弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、子葉あり。間弁は連続。外区に珠紋12。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半ナデ、裏面ナデ。丸瓦凸面縦ナデ、凹面ナデ。	12世紀前葉。山城産。平安宮内膳司(市埋文1980)17、平安京左京一条三坊十町(伊藤2013)瓦4、総山遺跡(市埋文1996)878と同紋。尊勝寺(奈文研1961)64型式と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦18と同紋。栗栖野窯(吉村1993)14と同紋。	計2点出土。
129	単弁10弁蓮華紋。圏線中房、中房中央に突起あり。蓮弁は分離し、中央部凹む。間弁は連続。外区に珠紋、上半大7個、下半小2個。周縁は素紋直立縁。瓦当面は楕円形。	裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ケズリ、裏面下端横ケズリ・上半ナデ。裏面平坦。	12世紀。山城産。平安京左京北辺三坊六町(常磐井1980)NM01、左京八条三坊二町(植山1983)3と同紋。円勝寺(上原1972)ER038型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦21と同範。南ノ庄田窯(高1998)16、栗栖野窯(市埋文1996)122と同紋。	計3点出土。
130	単弁8弁蓮華紋。圏線中房で、歪む。蓮子は1+4。蓮弁は分離し、中央部凹む。間弁は連続。外区は一段凹み、密な珠紋24。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半・下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀前葉。山城産。東寺(森ほか1995)30と同紋。白河(市埋文1996)550、尊勝寺(奈文研1961)63型式と同紋。円勝寺(上原1972)ER032型式・円勝寺(上村ほか2015)瓦20と同範。	計14点出土。
131	単弁10弁蓮華紋。凸中房、蓮子は不明。蓮弁は互いに接し、子葉あり。間弁は連続。外区に珠紋。周縁は素紋直立縁。範キズ多い。	瓦当成形不明。瓦当側面上半ナデ、下半横ナデ、裏面ナデ。裏面盛り上がる。丸瓦凸面縦縄タタキ、凹面布目。	12世紀。山城産。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
132	単弁12弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、子葉あり。間弁は三角形で単独。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半縦ナデ、裏面ナデ。	12世紀前葉。山城産。仁和寺(市埋文1996)783、御室浄光院(上村2001)67と同紋。法勝寺池(近藤2014)瓦7、尊勝寺阿弥陀堂(石井2015)148、円勝寺(上村ほか2015)瓦28と同紋。	計1点出土。
133	単弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+7。蓮弁は分離し、子葉は三角形で不揃い。間弁は棒状で単独、界線に接する。外区に界線。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当成形不明。瓦当側面下半ナデ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。円勝寺(上村ほか2015)瓦33と同範。	計7点出土。
134	単弁6弁蓮華紋。凸中房、周囲に密な蓋あり。蓮弁は分離し、上面は平坦。外区は1段下がる。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半オサエナデ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。	計1点出土。
135	単弁4弁蓮華紋。半球状中房。蓮弁は宝珠形で、分離する。間弁は独立し、先端から唐草が両側に展開する。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半縦ナデ、裏面ナデ。裏面中央凹む。	12世紀。山城産。平安京右京六条一坊(平尾ほか2002)瓦23、左京九条三坊十町(上村2015)瓦9と同紋。白河(五十川1981)34-8と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦44と同範。	計2点出土。
136	単弁8弁蓮華紋。凸中房、蓮子無し。蓮弁は剣頭形で分離し、輪郭線のみ、内面平坦。蓮弁の間は一段上がる。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ、裏面平坦。	12世紀。山城産。	計4点出土。
137	単弁8弁蓮華紋。凹中房、蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、やや盛り上がる。間弁は連続。外区なし。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、下半横ケズリ、裏面オサエナデ。裏面平坦。丸瓦凸面縦ナデ、凹面布目。範はB型。	12世紀前葉。山城産。法勝寺(市埋文1996)389と同紋。円勝寺(上原1972)ER033型式と同範。	計8点出土。
138	単弁8弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+4。蓮弁は剣頭形で分離。子葉あり。間弁は三角形で、1ヶ所配す。蓮弁・間弁上面平坦。外区一段下がる。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面ナデ。裏面やや盛り上がる。範はB型。	12世紀前葉。山城産。法勝寺池(上原1976)3、尊勝寺(奈文研1961)86型式と同紋。円勝寺(上原1972)SR086型式と同範。	計21点出土。1995年報告、図46-3。
139	138と同紋。蓮弁は幅広い。間弁なし。周縁内側に1ヶ所線鋸歯紋配す。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ケズリ、裏面ナデ後平行タタキ。裏面平坦。丸瓦凸面縄タタキ後縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。	12世紀前葉。山城産。円勝寺(上村ほか2015)瓦36と同範。	計4点出土。
140	138と同紋。中房大きく、上面盛り上がる。蓮子なし。蓮弁・子葉は幅広く、短い。蓮弁・子葉上面は平坦。	瓦当成形不明。調整不明。	12世紀前葉。山城産。法勝寺金堂回廊(上村ほか1987)14と同紋。円勝寺(上原1972)ER044型式・円勝寺(上村ほか2015)瓦35と同範。	計4点出土。
141	単複交互蓮華紋。複弁5弁+単弁5弁で交互に配する。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、子葉あり。間弁は独立。蓮弁・間弁は凸縁。外区に界線、珠紋11、圏線。周縁は素紋直立縁。瓦当面楕円形。瓦当面摩滅、範キズ多い。	瓦当成形不明。瓦当側面上半ナデ、下半横ケズリ、裏面上半ナデ、裏面下端横ケズリ後ナデ。丸瓦凸面ナデ、凹面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。山城産。下鴨神社(市埋文1996)665、仁和寺円堂院(市埋文1990)42と同範。円勝寺(上村ほか2015)瓦46と同範。	計2点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
142	単複混合蓮華文、複弁7弁+単弁2弁。圏線中房で内向突起あり。蓮子は1+4。蓮弁は分離し、不揃い。蓮弁は凸線。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半縦ナデ、下半ナデ、裏面ナデ。範はB型。	12世紀。山城産。平安京左京八条三坊十四町(網ほか1996)と同紋。尊勝寺(奈文研1961)41型式と同紋。円勝寺(上原1972)SR041型式と同紋。	計3点出土。
143	単複交互蓮華紋。複弁6弁+単弁6弁で、上下2重で交互に配する。凹中房、4ヶ所内向突起あり、蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、子葉あり。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面オサエナデ。裏面盛り上がる。	12世紀前葉。山城産。仁和寺円堂院(市埋文1990)61、法金剛院(市埋文1997)26、平安京左京二条四坊十五町(柏田2014)瓦5、東寺八幡社(上村1993)13と同紋。尊勝寺(奈文研1961)18型式と同紋。円勝寺(上原1972)SR018型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦44と同範。	計1点出土。
144	単複混合蓮華紋。単弁2弁+複弁6弁。凸中房で、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、盛り上がる。複弁は中央凹む。間弁は三角形で連続。周縁は素紋直立縁。瓦当面が周縁より大きく、楕円形。	瓦当成形不明。瓦当側面上半・下半横ケズリ、裏面不定方向ナデ、下縁横ケズリ。裏面平坦。範はA型。	12世紀。山城産。平安宮中和院(市埋文1980)30、平安京左京三条二坊十町(加納2008)瓦19~21と同紋。円勝寺(上原1972)ER025 a型式と同範。	計1点出土。
145	複弁蓮華紋。凸中房で、蓮子は不明。蓮弁は互いに接し、子葉盛り上がり、弁端切れ込みあり。外区に三個1単位の珠紋を配す。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面上半オサエ、裏面不定方向ナデ。丸瓦凸面縦ナデで部分的にケズリ、凹面縦ナデ。	12世紀。播磨産。林崎三本松窯(池田2017)NM03Aと同紋。	計1点出土。
146	複弁6弁蓮華紋。凸中房で縁部に圏線。蓮子は1+6。蓮弁は互いに接し、子葉やや盛り上がる。外区に界線。周縁は素紋直立縁。中房径5.3cm、界線径10.2cm、界線外に範キズ一ヶ所あり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	12世紀前葉。播磨産。円勝寺(上村ほか2015)瓦67、円勝寺(市埋文1996)494、尊勝寺(奈文研1961)45B型式と同紋。林崎三本松窯(池田2017)NM10Cと同紋。	計2点出土。
147	複弁蓮華紋。凸中房。蓮子は不明。蓮弁は互いに接し、子葉やや盛り上がる。外区に界線あり。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。範はB型。	12世紀。播磨産。林崎三本松窯(池田2017)NM10と同紋。	計2点出土。
148	複弁蓮華文。中房不明。蓮弁は互いに接し、子葉やや盛り上がる。外区に界線あり。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。播磨産。	計1点出土。
149	複弁8弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、子葉あり。間弁は三角形で連続。外区に界線。周縁は素紋直立縁。中房径5.3cm、界線径12.4cm。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面オサエナデ。裏面盛り上がる。	12世紀。播磨産。平安京左京八条三坊四町(布川2009)瓦5と同紋。法勝寺(家崎1987)51、法勝寺北方(近藤ほか2005)62-517と同紋。円勝寺(上原1972)ER004型式、円勝寺(市埋文1996)492と同紋。	計10点出土。
150	149と同紋で、中房径小さい。中房径4.5cm、界線径12.0cm。	149と成形・調整技法は同様。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀。播磨産。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
151	149と同紋で、中房・内区径小さい。中房径4.3cm、界線径10.6cm。	瓦当成形不明。瓦当側面上半横ナデ、下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。丸瓦凸面縦縄タタキ後横ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ後縦ナデ。玉縁部凸面横ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ、端面横ケズリ、端面内縁ケズリで面取り。範はB型。	12世紀。播磨産。	計1点出土。 1995年報告、 図46-5。
152	複弁13弁蓮華紋。圏線中房で内向突起4ヶ所あり。蓮子は1+4。蓮弁は分離し、子葉あり。間弁は弧線で、弁端に連結。外区なし。周縁は素紋直立縁。瓦当面離れ砂付着。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)22型式・尊勝寺(梶川ほか1977)SWA09、円勝寺(上原1972)SR022型式、白河北殿(五十川1981)7と同紋。 林崎三本松窯(池田2017)NM34と同紋。	計1点出土。
153	複弁蓮華紋。凹中房で、蓮子は1+6。蓮弁は分離し、子葉やや盛り上がる。間弁は水滴形で連続。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面横ナデ。	12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)51型式と同紋、円勝寺(市埋文1996)493と同紋。 神出窯(額額2018)丸1501型式	計1点出土。
154	単弁11弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+6。蓮弁は互いに接し、子葉やや盛り上がる。外区に界線・密な珠紋・圏線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半・下半横ナデ、裏面不定方向ナデ。裏面平坦。	12世紀。播磨産。 円宗寺(市埋文1997)53と同紋。 神出窯(額額2018)丸0302型式と同紋。久留美平井窯(中村1990)図版29-3と同紋。	計3点出土。
155	単弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、細長い。外区に珠紋・圏線あり。周縁は素紋直立縁。外区に範キズあり。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	12世紀。播磨産。	計1点出土。
156	単弁14弁蓮華紋。圏線中房、周囲に圏線廻る。蓮子は1+5。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。蓮弁の稜線が界線に接する。間弁は三角形で連続。外区に密な珠紋。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面不定方向ナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀。播磨産。 円勝寺(上原1972)ER043型式と同紋。	計2点出土。
157	単弁16弁蓮華紋。圏線中房。蓮子は1+5。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。間弁は三角形で独立。外区に界線。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。範はA型。	12世紀。播磨産。 法勝寺(市埋文1996)387と同紋。 神出(額額2018)丸0101と同紋。	計2点出土。
158	単弁8弁蓮華紋。圏線中房、周囲に蓋あり。蓮子は1+8。蓮弁は互いに接し、輪郭線のみ、内面平坦。間弁は連続。外区に界線。周縁は素紋直立縁。範キズあり。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	12世紀。播磨産。 平安宮(平博1977)196、法金剛院(小松ほか1998)10と同紋。 尊勝寺(奈文研1961)54型式と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦84、円勝寺(上原1972)SR054型式と同紋。 林崎三本松窯(池田2017)NM35Bと同紋。	計1点出土。
159	158と同紋。中房周囲蓋は粗い。内区径大きい。範キズあり。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。播磨産。 尊勝寺(奈文研1961)55型式と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦76と同紋。 林崎三本松窯(池田2017)NM35Aと同紋。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
160	単弁蓮華紋。圏線中房。蓮弁は互いに接し、弁端に稜あり。蓮弁基部に凹みあり。間弁は連続。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	12世紀。播磨産。尊勝寺(奈文研1961)73B型式と同紋。円勝寺(上原1972)SR073型式と同紋。	計1点出土。
161	単弁8弁蓮華紋。凸中房でやや盛り上がり、周囲溝あり。蓮子は1+6+8。蓮弁は互いに接し、子葉盛り上がり、弁端に切り込みあり。間弁は連続。外区なし。周縁は素紋直立縁で、上面が内傾する。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面盛り上がる。範はB型。	12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1961)47型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦73と同紋。林崎三本松窯(池田2017)NM08と同紋。	計1点出土。
162	複弁8弁蓮華紋。凸中房で、花形。蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、子葉あり。外区に界線・密な珠紋・圏線。周縁なし。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ。瓦当裏面に縄タタキ施すものあり。	12世紀前葉。丹波産。尊勝寺(奈文研1961)1型式、尊勝寺(市埋文1980)189、尊勝寺阿弥陀堂(石井2015)151と同紋。	計2点出土。
163	複弁8弁蓮華紋。凸中房で、周囲に圏線廻る。蓮子は1+4。蓮弁は互いに接し、子葉盛り上がる。間弁は連続し、端部水滴状となる。外区に密な珠紋。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半・下半ナデ、裏面ナデ。裏面盛り上がる。	12世紀前葉。丹波産。	計2点出土。
164	単弁8弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、上面は平坦。間弁は三角形で単独。外区に界線・珠紋19。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面不定方向ナデ。裏面平坦。丸瓦凸面縦縄タタキ後縦ナデ、凹面布目、側面縦ナデ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。平安京左京六条三坊十二町(小森ほか1982)X5-81と同紋。尊勝寺(奈文研1961)65型式、尊勝寺五大堂(上村1989)2、円勝寺(上原1972)ER030型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦85と同範。出雲神社境内(梅原1925)図版33-6と同範。	計9点出土。
165	単弁8弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+4。蓮弁は分離し、上面は平坦。間弁は単独。外区に界線・密な珠紋。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面オサエナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。平安京左京八条三坊四町(布川2009)瓦4と同紋。	計7点出土。
166	単弁17弁蓮華紋。凸中房、蓮子は1+4。蓮弁はアーモンド形で分離。蓮弁は不揃いで盛り上がる。間弁は三角形で単独。外区に界線・密な珠紋。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。平安宮朝堂院白虎楼(柏田2013)6、平安京左京六条三坊十町(長戸ほか2000)5、東寺(森ほか1995)41と同紋。円勝寺(上原1972)ER029A型式と同範。出雲神社境内(梅原1925)図版33-5と同紋。	計5点出土。
167	166と同紋。凸中房で周囲に凹線あり。蓮子は1+4で、間に区画線あり。蓮弁は三角形で分離。間弁は三角形で単独。外区に界線・密な珠紋32・圏線。珠紋は166より多く大きい。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。平安京左京六条三坊五町(尾籾2005)70-4と同紋。法勝寺(鈴木2016)40-12と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦83と同範。	計10点出土。
168	単弁8弁蓮華紋。圏線中房、左巻き三巴紋を配す。巴紋頭部・尾部は離れる。蓮弁は分離し、子葉・輪郭線あり。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面不定方向ナデ。裏面平坦。	12世紀。大和産。尊勝寺(奈文研1961)77型式と類似。法勝寺(小川1923)と同紋。興福寺中門(山崎1999)21図-8と同紋。	計2点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
169	複弁6弁蓮華紋。圏線中房、蓮子は不明。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。間弁は三角形で、輪郭線と接する。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面不定方向ナデ。裏面平坦。胎土は黄灰色。	12世紀。産地不明。	計1点出土。
170	単弁8弁蓮華紋。凸中房で中央凹む。蓮子は0+4+8。蓮弁は分離し、上面平坦。外区に界線、珠紋16。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半縦ケズリ、下半横ケズリ、裏面横方向ナデ。裏面平坦。丸瓦凸面縦縄タタキ後縦ナデ、凹面布目、側面縦ケズリ。丸瓦凹面の整合部ヘラキザミ施す。胎土は浅黄橙色。範はB型。	12世紀。産地不明。	計6点出土。
171	単弁蓮華紋。中房不明。蓮弁は分離し、子葉盛り上がる。間弁は単弁で、周縁に接する。蓮弁・間弁不揃い。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面上半ナデ、裏面ナデ。丸瓦凸面斜格子タタキ、凹面布目。胎土は黄灰色、砂粒多く含む。範はB型。	12世紀。産地不明。	計1点出土。
172	単弁蓮華紋。中房不明。蓮弁は剣形で分離し、やや盛り上がる。外区なし。周縁は素紋直立縁で内側に段あり。	瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。産地不明。	計1点出土。
173	唐草紋。圏線中房、蓮子は1+6。内区は、唐草紋3ヶ所が、周縁から内向きに展開。周縁内側に唐草紋と重複する界線あり。周縁は素紋直立縁。瓦当面筋キズ多い。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面横ナデ、裏面オサエ。丸瓦凸面縄タタキ。	12世紀。産地不明。法勝寺(石田1947)10と同紋。	計1点出土。
174	蓮華巴紋。内区は右巻三巴紋。巴紋頭部・尾部は離れる。外区に単弁8弁蓮華紋。蓮弁は分離し、子葉やや盛り上がる。周縁と蓮弁間に輻線を配し、圏線あり。輻線の幅細かい。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面横方向ナデ。裏面平坦。	12世紀。山城産。平安宮(市埋文1996)259と同紋。尊勝寺(奈文研1961)101型式と同紋で小型。旧勸業館(市埋文1996)510、円勝寺(上村ほか2015)瓦116と同紋。	計2点出土。
175	174と同紋。外区輻線の幅が174より粗い。外区に圏線なし。	174と成形・調整は同様。瓦当側面上半ナデ、下半ナデ、裏面オサエナデ。裏面凹凸あり。	12世紀。山城産。	計15点出土。1995年報告、図46-1。
176	蓮華巴紋。内区は左巻三巴紋。巴紋頭部・尾部は離れる。外区に単弁蓮華紋。蓮弁は分離し、上面平坦。間弁は単弁で、周縁に接する。周縁は素紋直立縁で、上面に圏線あり。	瓦当成形不明。瓦当側面上半横ナデ、裏面縦方向ナデ。裏面平坦。丸瓦凸面・凹面・側面縦ナデ。範はB型。	12世紀。播磨産。	計2点出土。
177	右巻三巴紋。頭部・尾部離れる。上面盛り上がる。外区に界線・密な珠紋・圏線。周縁は素紋直立縁。範キズあり。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面下半ナデ、裏面オサエ・ナデ。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。平安宮中和院(大矢ほか1983)157、平安京左京六条三坊七町(定森1995)2、と同紋。円宗寺(市埋文1997)54と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦93と同紋。	計1点出土。
178	右巻三巴紋。頭部・尾部離れる。外区に界線・密な珠紋。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面やや凹む。	12世紀。山城産。	計5点出土。
179	右巻三巴紋。頭部離れ、尾部は界線に接する。外区に密な珠紋。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。	12世紀。山城産。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
180	左巻三巴紋。頭部・尾部離れる。外区に界線・密な珠紋。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀。山城産。	計2点出土。
181	右巻三巴紋。頭部離れる。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半縦ナデ、下半横ナデ、裏面オサエ。裏面平坦。	12世紀。山城産。	計2点出土。
182	右巻三巴紋。頭部・尾部離れる。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面オサエ。裏面盛り上がる。	12世紀。山城産。	計3点出土。
183	右巻三巴紋。頭部・尾部離れる。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半ナデ、裏面オサエ。	12世紀。山城産。	計2点出土。
184	右巻三巴紋。頭部離れ、尾部は周縁に接する。外区なし。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。	12世紀。山城産。	計4点出土。
185	右巻三巴紋。頭部離れる。外区なし。周縁は素紋直立縁。範キズあり。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面ナデ。裏面平坦。範はB型。	12世紀。山城産。	計1点出土。
186	右巻三巴紋。頭部・尾部離れる。巴紋上面は平坦。外区に界線・密な珠紋。周縁は素紋直立縁。	瓦当成形不明。瓦当側面下半横ナデ、裏面オサエナデ。範はB型。	12世紀。播磨産。林崎三本松窯(池田2017)NM40と同紋。	計1点出土。
187	複弁蓮華文。凸中房で、蓮子不明。蓮弁は互いに接し子葉あり。間弁は三角形で連続。外区に密な珠紋・圏線。周縁は素紋直立縁。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。	13世紀。山城地。亀山殿(内田2004)120と同紋。	計5点出土。
188	左巻三巴紋。頭部・尾部は離れる。外区に珠紋・圏線。周縁は素紋直立縁。小型瓦。	瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面上半横ナデ、裏面ナデ。	13世紀。山城産。	計1点出土。

表4 軒平瓦観察表

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
201	内行4転唐草紋。中心紋なし。唐草主葉は連続して反転し、先端巻き込み、返りあり。外区に界線・珠紋。周縁は素紋直立縁。瓦当面范キズあり。	曲線顎Ⅱ。瓦当半折曲成形。瓦当上縁横ナデ、顎下面横ナデ、顎下縁横ケズリ、顎裏面縦ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ凹凸多い、側面縦ケズリ。	11～12世紀。山城産。平安宮内裏内郭回廊(平博1977)467、平安京左京三条二坊十町(加納2008)瓦95・左京三条三坊十二町(植山ほか1983)34-1と同紋。法勝寺(市埋文1996)419、円勝寺(上原1972)ER142型式と同紋。	計1点出土。
202	内行3転唐草紋。中心紋なし。唐草主葉は連続して緩やかに反転し、先端巻き込む。支葉先端も巻き込む。上下外区に界線、密な珠紋、圏線。周縁は素紋直立縁。	曲線顎Ⅱ。瓦当半折曲成形。瓦当上面ナデ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。	11～12世紀。山城産。平安京左京四条三坊十六町(桐山2005)20、左京九条三坊一町(堀内2008)8と同紋。円勝寺(市埋文1996)502と同紋。円勝寺(上原1972)ER119型式と同範。	計2点出土。
203	外行3転唐草紋。中心は背向C字、上下に紡錘形を配す。唐草主葉は分離し、強く巻き込み、先端水滴状となる。外区に界線・密な珠紋。界線左右両端は三角形。周縁は素紋直立縁。	蹄顎。瓦当顎貼付成形。瓦当上縁横ケズリ、顎凸面横縄タタキ、裏面横縄タタキ・横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。平瓦凹面中央に方形凸基(2×2cm)2ヶ所あり。	11世紀後葉。丹波産。平安京左京三条三坊十一町(松井ほか1984)1と同紋。	計3点出土。1995年報告、図46-12。
204	外行3転唐草紋。中心紋は背向C字、上下に紋様なし。唐草主葉は連続して大きく反転し、支葉先端強く巻き込む。上下外区に界線・密な珠紋。脇区なし。瓦当面范キズあり。	長段顎。瓦当顎貼付成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ケズリ、側面縦ケズリ。范はB型。	11世紀後葉。丹波産。円勝寺(上村ほか2015)瓦152と同範。	計13点出土。1995年報告、図46-13。
205	外行4転唐草紋。中心紋は下向半裁花紋。唐草主葉は分離し、先端強く巻き込む。外区に界線・密な珠紋・圏線。界線左右両端は三角形。周縁は素紋直立縁。瓦当面范キズ多い。	蹄顎。瓦当顎貼付成形。瓦当上面布目、顎下面縦縄タタキ、顎裏面横縄タタキ。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ナデ。范はB型。	11世紀後葉。丹波産。平安宮中務省(辻1990)8と同紋。篠三軒家南窯(安井1960)98-10と同紋。	計2点出土。
206	外行2転唐草紋。中心紋は上向半裁花紋。唐草主葉は連続して大きく反転し、支葉は強く巻き込む。外区なし。周縁は素紋直立縁。	曲線顎Ⅱ。瓦当成形不明。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面から平瓦は格子叩き。平瓦凹面布目後縦ナデ、凸面格子タタキ、側面縦ケズリ。	11～12世紀。讃岐産。平安宮朝堂院白虎楼(柏田2013)10と同紋。西村1号窯(松本1986)と同紋。	計13点出土。1995年報告、図46-8。
207	206と同紋。唐草支葉の巻きが強く、形状が異なる。左3転目の唐草が切れ、范両側を縮小。	曲線顎Ⅱ。瓦当顎貼付成形。瓦当上面横ナデ、顎下面横ケズリ、顎裏面から平瓦は格子叩き。平瓦凹面布目、凸面格子タタキ、側面縦ケズリ。側面に凹型台圧痕、バリが残存するものもある。	11～12世紀。讃岐産。	計5点出土。
208	206と同紋。唐草支葉の形状が異なる。右3転目唐草が切れ、范両側を縮小。	曲線顎Ⅱ。瓦当顎貼付成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ケズリ。顎裏面から平瓦に格子叩き。平瓦凹面布目、凸面格子タタキ、側面縦ケズリ。	11～12世紀。讃岐産。	計4点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
209	外行3転唐草紋。中心は背向C字で、弧線で上下を連結。唐草主葉は連続して大きく反転し、先端が分岐し、分岐点に蕾あり。支葉先端は強く巻き込む。唐草は、外区界線に接する。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当顎貼付成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ケズリ・横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面縦ナデ、凸面縦ナデ。	11世紀後葉。播磨産。法勝寺金堂(市文観1976a)図14-7と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦115と同紋。	計2点出土。
210	外行3転唐草紋。中心紋は上向C字並列で、下に紡錘形配す。唐草は複線。唐草主葉は互いに接して、先端大きく巻き込む。外区に2重界線。周縁なし。	段顎。瓦当半折曲成形。瓦当顎下面横ケズリ、顎裏面横ナデ。	11~12世紀。備前産。平安宮(市埋文1996)297、平安京左京五条三坊九町(網2008)瓦7、左京六条三坊七町(定森1995)4と同紋。円勝寺(上原1972)ER102型式と同範。円勝寺(上村ほか2015)瓦160と同紋。備前国分寺(宇垣2009)18式と同紋。	計2点出土。
211	唐草紋。左偏行2転+右偏行2転+左偏行2転。中心紋なし。唐草主葉は連続し緩やかに展開し、先端巻き込み、返りあり。外区に界線・粗い珠紋。周縁は素紋直立縁。瓦当面キズ多い。平瓦凸面にヘラ記号「V」あり。	曲線顎Ⅱ。瓦当半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀前葉。山城産。東寺(森ほか1995)151と同紋。尊勝寺(奈文研1961)174型式と同紋、円勝寺(上原1972)SR174型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦161と同範。栗栖野窯(市埋文1996)82、南ノ庄田窯(高1988)1と同範。	計7点出土。
212	外行2転唐草紋。中心紋不明。唐草主葉は連続して大きく展開。支葉先端は巻き込む。唐草は周縁に接する。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当半折曲成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面横ナデ、側面縦ナデ。	12世紀前葉。山城産。平安宮中和院(平博1977)504、平安京左京二条四坊十五町(柏田2014)瓦23、勸修寺(平方ほか1991)13と同紋。尊勝寺(奈文研1961)244形式と同範。	計1点出土。
213	外行2転唐草紋。中心紋は花紋。唐草主葉は連続し緩やかに展開。支葉先端の巻き弱い。外区・周縁なし。瓦当面に布目あり。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。	12世紀。山城産。	計2点出土。
214	外行3転唐草紋。中心紋は花紋。唐草主葉は連続し緩やかに展開。支葉は巻き込み先端丸い。唐草太い。外区なし。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面ナデ。平瓦凹面布目、側面縦ナデ。	12世紀。山城産。円勝寺(上村ほか2016)瓦130と同紋。	計2点出土。
215	外行3転唐草紋。中心紋は3重半裁花紋。唐草主葉は分離し、先端強く巻き込む。外区なし。周縁は素紋直立縁。瓦当面布目残存	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面ナデ・オサエ。頸部曲げ皺あり。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ。	12世紀前葉、山城産。法勝寺金堂回廊(上村ほか1987)46と同紋。尊勝寺(奈文研1961)272型式、円勝寺(上原1972)SR272A型式と同紋。	計4点出土。
216	215と同紋。唐草は連続して反転し、先端巻き込む。唐草細い。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面横ナデ、顎下面横ナデ、顎裏面ナデ。	12世紀前葉、山城産。円勝寺(上原1972)SR272B型式と同紋。	計1点出土。
217	外行唐草紋。唐草主葉は連続して緩やかに展開。支葉は巻き込む。唐草主葉は連続し。外区なし。周縁は素紋直立縁で下のみ残存。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面斜縄タタキ、顎裏面横縄タタキ後オサエ。頸部曲げ皺あり。	12世紀。山城産。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
218	外行2転唐草紋。中心紋なし。唐草主葉は連続して緩やかに展開。支葉は巻き弱く、左が4本・3本、右が3本・4本である。外区なし。周縁は素紋直立縁。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面布目、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。	12世紀後葉。山城産。尊勝寺(上村1990)24と類似。円勝寺(上村ほか2016)瓦133と同範。	計1点出土。
219	218と同紋。唐草支葉は、右が4本・4本である。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面縦縄タタキ。顎部曲げ皺あり。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面ナデ。	12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1961)181型式と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦132と同範。	計1点出土。
220	右4転偏行唐草紋。唐草主葉は連続して大きく反転し、先端巻き込む。支葉も強く巻き込む。外区なし。周縁は素紋直立縁で、一部残存。範型と、瓦当幅・弧が一致していないため、紋様上下が切れる。瓦当面範キズあり。	曲線顎Ⅱ。瓦当半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目・糸切痕跡残存、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	12世紀前葉。山城産。平安宮朝堂院(平博1977)462、平安京左京六条三坊十二町(小森ほか1982)X5-100と同紋。尊勝寺(奈文研1961)195型式と同紋。円勝寺(上原1972)SR195型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦179と同範。栗栖野窯(吉村1993)87と同範。	計8点出土。
221	右偏行唐草紋。唐草主葉は連続して緩やかに展開。支葉は巻き込む。外区なし。周縁は素紋直立縁。瓦当面に布目あり。	段顎。瓦当半折曲成形。瓦当上面布目、顎下面横ナデ、顎裏面縦ナデ。平瓦凹面布目、凸面オサエナデ、側面縦ケズリ。	12世紀前葉。山城産。尊勝寺(奈文研1961)209型式と同紋。尊勝寺阿弥陀堂(石井2015)176と同紋。	計3点出土。
222	外行2転唐草紋。中心紋は上向2重C字形。唐草主葉は分離し、先端巻き込む。3転目はS字形。外区なし。周縁は素紋直立縁で、左右両側が狭くなる。瓦当面周縁部分的に離れ砂附着。	曲線顎Ⅱ。瓦当成形不明。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面糸切痕跡残存布目、凸面縦ケズリ、側面縦ケズリ。	12世紀。播磨産。円勝寺(上原1972)ER113型式と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦221と同紋。	計7点出土。1995年報告、図46-7。
223	外行3転唐草紋。中心紋は水滴形。唐草主葉は連続して反転し、先端巻き込む。外区なし。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。瓦当上面横ナデ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦端面にヘラ刻み目あり。	12世紀。播磨産。円勝寺(上村ほか2016)瓦174と同紋。神出窯(額綱2018)平3501・(池田1998)NH13、林崎三本松窯(池田2017)NH31と同紋。	計1点出土。
224	右偏行19転唐草紋。唐草主葉は連続して緩やかに展開。支葉は巻き込む。外区に界線、界線左右両端は丸い。周縁は素紋直立縁。	バチ形顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。瓦当上面横ナデ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。	12世紀。播磨産。尊勝寺(奈文研1961)218型式、尊勝寺阿弥陀堂(石井2015)180、成勝寺(網ほか1995)9、円勝寺(上村ほか2015)瓦238と同紋。林崎三本松窯(池田2017)NH17・久留美柳谷窯(池田ほか1999)NH8と同紋。	計1点出土。
225	外行3転唐草紋。中心紋は背向C字、上下に唐草配す。唐草主葉は分離して大きく巻き込み、先端丸い。支葉は巻き弱い。外区に界線・密な珠紋。界線左右両端は三角形。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面布目、顎下面縦縄タタキ、顎裏面縄タタキ、顎部オサエ。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。尊勝寺阿弥陀堂(上村1981)6-17、円勝寺(上原1972)ER117型式と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦243と同紋。出雲神社境内(上原1978)と同紋。	同紋瓦28点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
226	瓦225と同紋。中心紋の上に水滴形、下に唐草配す。唐草主葉・支葉の形状が異なる。界線左右両端は三角形。瓦当面布目残存、範キズ多い、中心紋左下部に大きい範キズあり。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁は平瓦から連続した布目、顎下面斜方向縄タタキ、顎裏面縦縄タタキ。顎部曲げ皺・オサエあり。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面ナデ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。平安宮真言院(市文観1976b)20、平安京左京六条三坊十町(長戸ほか2000)22と同紋。円勝寺(上原1972)ER117A型式と同範。円勝寺(上村ほか2015)瓦242と同範。篠窯(安井1960)97-1と同紋。	計2点出土。
227	外行3転唐草紋。中心紋は背向C字形。上・下の紋様なし。唐草主葉は分離し、先端巻き込む。支葉の巻き弱い。外区に界線・密な珠紋。界線左右両端は垂直。周縁は素紋直立縁。瓦当面に布目残存。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面は平瓦から連続した布目、顎下面斜方向縄タタキ、顎裏面オサエ。顎部強いオサエ。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。法勝寺北方(近藤ほか2005)542と同紋。円勝寺(上原1972)ER118型式と同紋。篠窯(安井1960)97-8と同紋。	計10点出土。
228	227と同紋。唐草主葉の形状が異なる。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面布目、顎下面縦縄タタキ、顎裏面横縄タタキ。顎部曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(上原1972)ER118型式と同紋。篠窯(亀岡市1994)11と同紋。	計2点出土。
229	外行3転唐草紋。中心紋は陽刻で上向半裁花紋。唐草は陰刻。唐草主葉は連続して大きく反転し、先端巻き込む。外区は陽刻で、界線・珠紋配する。珠紋は3個1単位。周縁は素紋直立縁。瓦当面布目残存、範キズ多い。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面斜方向縄タタキ、顎裏面縦縄タタキ。顎部オサエ。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。平安宮内裏(網1989)36と同紋。法勝寺(市埋文1996)420・592、円勝寺(上原1972)ER108型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦250と同範。	計25点出土。1995年報告、図46-9。
230	外行2転唐草紋。中心紋は花紋。唐草主葉は連続して大きく反転し、先端巻き込む。支葉も巻き込む。唐草分岐点に蕾を配す。外区に界線。周縁は素紋直立縁。内区左端を縮小。瓦当面範キズあり。	段顎。瓦当顎貼付成形と瓦当折曲成形あり。瓦当上面横ケズリ、顎下面斜方向縄タタキ、顎裏面横縄タタキ。平瓦凹面布目・端部付近横ケズリ、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。狭端面横ケズリ、縁部ケズリで面取り。平瓦短い。	11～12世紀。丹波産。円勝寺(上原1972)ER123A型式と同範。	計6点出土。1995年報告、図46-11。
231	230と同範で、内区下半を縮小、下界線が内区唐草と重複する。瓦当面範キズ多い。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面平瓦から連続した布目、顎下面斜方向縄タタキ、顎裏面オサエ。平瓦凹面糸切痕跡・布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(上原1972)ER123B型式と同範。円勝寺(上村ほか2016)瓦190と同紋。	計6点出土。
232	外行6転唐草紋。中心紋は樹状。唐草主葉は連続して反転する。支葉巻き込む。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当折曲成形。顎下面横ナデ、顎裏面横縄タタキ後ナデ。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(上原1972)ER151型式と同範。円勝寺(上村ほか2016)瓦191と同範。	計2点出土。
233	外行唐草紋。唐草主葉は分離して大きく反転し、先端巻き込む。支葉も巻く。外区に2重界線。周縁は素紋直立縁。瓦当面に布目残存。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面は平瓦から連続した布目後ナデ、顎下面横ケズリ、顎裏面縄タタキ。顎部曲げ皺・布目あり。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。	計5点出土。
234	外行5転唐草紋。中心紋なし。唐草主葉は分離して大きく反転し、先端強く巻き込み、水滴状となる。内区上下幅狭い。外区に2重界線。周縁は素紋直立縁。瓦当面布目残存。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面は平瓦から連続した布目、顎下面斜方向縄タタキ後横ナデ、顎裏面縦縄タタキ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。法勝寺北方(辻2007)48、円勝寺(上原1972)ER101A型式と同紋。円勝寺(上村ほか2016)瓦192と同紋。	計6点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
235	234と同紋。唐草主葉・支葉の形状異なる。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面は平瓦から連続した布目、顎下面斜方向縄タタキ後横ケズリ、顎裏面縦縄タタキ。顎部に強い横ナデ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。円勝寺(上原1972)ER101B型式と同紋。	計1点出土。
236	234と同紋。唐草主葉・支葉の形状異なる。唐草の形状異なる。234・235より内区上下幅広い。瓦当面に布目残存、範キズ多い。	段顎。瓦当折曲成形。周縁上縁横ケズリ。瓦当上面布目、顎下面横ケズリ、顎裏面縦縄タタキ後オサエ。顎部曲げ皺あり。	12世紀前葉。丹波産。	計2点出土。
237	外行3転唐草紋。中心紋は花形。唐草主葉は分離して反転し、先端巻き弱い。外区に珠紋を配す。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ多い。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、上面布目、顎下面横ケズリ、顎裏面縦縄タタキ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。法勝寺阿弥陀堂(高橋2012)20と同紋。最勝寺(尾藤1995)24、円勝寺(上原1972)ER144型式、円勝寺(上村ほか2015)瓦248と同範。	計14点出土。
238	外行唐草紋。中心紋は背向C字紋で、上下に三角形配す。唐草主葉は分離して反転し、先端の巻き弱い。外区に界線。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズ少しあり。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁平瓦から連続した布目、顎下面縦縄タタキ後横ナデ、顎裏面縦縄タタキ。	12世紀前葉。丹波産。	計1点出土。
239	外行唐草紋、右2転、左3転。中心紋なし。唐草主葉は連続して大きく反転する。支葉大きく巻き込み、先端葉状となる。外区なし。周縁は素紋直立縁。瓦当面布目残存。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面縦縄タタキ、顎裏面オサエナデ。顎部強く横ナデ。平瓦凹面糸切痕・布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ、狭端面横ケズリ後横ナデ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。法勝寺池(近藤2014)瓦24と同紋。尊勝寺(奈文研1961)150型式。	計4点出土。
240	239と同紋。右3転、左2転で、唐草支葉先端の形状異なる。外区に界線。周縁は素紋直立縁で、下縁のみ残存。瓦当面範型重複する。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面ナデ、顎下面横ケズリ、顎裏面縦縄タタキ。顎部曲げ皺あり。平瓦凹面糸切痕・ナデ、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀前葉。丹波産。尊勝寺(奈文研1961)150A型式、尊勝寺阿弥陀堂(石井2015)213と同紋。	計3点出土。
241	右偏行唐草紋。唐草主葉は上下界線から派生し、大きく反転し、先端分離する。支葉は多く、先端葉状となる。外区に2重界線。周縁は素紋直立縁。瓦当面範キズあり。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面斜方向縄タタキ後横ケズリ、顎裏面縦縄タタキ。平瓦凹面布目。	12世紀前葉。丹波産。	計4点出土。
242	外行2転唐草紋。中心紋は花紋。唐草主葉は連続して緩やかに展開。支葉巻き込む。外区に界線あり。周縁は素紋直立縁。	直線顎。瓦当貼付成形。瓦当上面ナデ、下面横ナデ。平瓦凹面縦ナデ、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。	12世紀中葉。大和産。興福寺(藪中1991)VII平A14と同紋。	計1点出土。
243	外行唐草紋。唐草主葉は連続して展開し、支葉巻き込む。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	直線顎。瓦当成形不明。瓦当上縁横ケズリ、瓦当下面縦ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ケズリ。	12世紀。和泉産。法勝寺塔(柏田2011)瓦82と同紋。円勝寺(上原1972)ER112型式と同紋。藤井寺市はさみ山遺跡(市本2001)図18左8と同紋。	計1点出土。
244	外行3転唐草紋。中心紋は背向C字。唐草主葉は分離して大きく反転する。支葉先端巻き込む。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当成形不明。瓦当上縁横ケズリ、上面布目、顎下面横ナデ、顎裏面ナデ。平瓦凹面糸切痕跡・布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ケズリ。	12世紀。備前産。備前国分寺(宇垣2009)20式と同紋。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同範・同紋	備考
245	外行唐草紋。中心紋は花紋。唐草主葉は分離し、先端巻き込む。両側支葉は巻き弱い。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	厚段顎。瓦当顎貼付成形。顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ、側面縦ナデ。	12世紀。備前産。円勝寺(上村ほか2015)瓦266と同紋。幡多廃寺(出宮1975)VI様式と同紋。	計2点出土。
246	内行3転唐草紋。中心は垂線配す。唐草主葉は連続して緩やかに展開。支葉巻き込み、返りあり。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当成形不明。瓦当上面布目、顎下面横ケズリ後横ナデ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縄タタキ後ナデ、側面縦ケズリ。範はB型。	12世紀。産地不明。平安京左京七条三坊五町(植山ほか1985)39-1と同紋。尊勝寺(上村ほか1996)5と同紋。	計2点出土。
247	外行唐草紋。唐草主葉は分離して反転し、先端水滴となる。外区に2重界線。周縁は素紋直立縁。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面型圧、下端オサエ。裏面型圧痕は木目あり、側縁側丸く段あり。範はB型。	12世紀。産地不明。	計1点出土。
248	外行唐草紋。中心紋は三葉。唐草主葉は連続して展開。支葉巻き込み、先端丸い。外区に2重界線。周縁は素紋直立縁。裏面土堤有り。	薄段顎。瓦当折曲成形。顎下面横ケズリ、顎裏面型圧痕あり。型圧痕には段があり、木目があり。	12世紀。産地不明。	計1点出土。
249	248と同紋で、唐草主葉・支葉の形状が異なる。瓦当面布目残存。	薄段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁は平瓦から連続する布目。顎下面横ナデ、顎裏面型圧痕あり。型圧痕は湾曲し、木目あり。	12世紀。産地不明。	計2点出土。
250	半裁花紋。中心縦線、左右に花紋上・下交互に3単位配す。紋様は凸線で、中に三葉配す。外区に界線。周縁なし。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当顎下面斜縄タタキ後横ケズリ、顎裏面糸切り痕跡あり。	12世紀。山城産。平安京右京三条一坊三町(上村ほか2002)瓦9と同紋。法勝寺北方(近藤2005)64-548と同紋。円勝寺(上村ほか2015)瓦268と同紋。	計4点出土。
251	半裁花紋。花紋上・下交互に配し、3単位。花紋は単弁状。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当半折曲成形。瓦当上面ナデ、顎下面横ケズリ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面縦ナデ。	12世紀中葉。山城産。栢杜堂(清野1975)0類と類似。円勝寺(上村ほか2015)瓦269と同紋。栗栖野窯(吉村1993)図26-98、南ノ庄田窯(高1988)21・22と同紋。	計1点出土。
252	陰刻剣頭紋。単位は不明。剣頭配置は放射状。	段顎。瓦当半折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面オサエ、頸部曲げ皺あり。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ後ナデ。	12世紀。山城産。	計1点出土。
253	陰刻剣頭紋。単位は不明。剣頭配置は垂直。右端「モント」形となる。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面布目、顎下面横ナデ、顎裏面オサエ・布目。平瓦凹面布目、凸面横方向オサエ、側面縦ナデ。	12世紀。山城産。	計1点出土。
254	陽刻剣巴紋。中央に剣頭紋、両側に三巴紋2単位、間の上下に八を配す。巴紋は右巻き3単位、混合巻き1単位。紋様は凸線。外区・周縁なし。瓦当面布目残存。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面は平瓦から連続した布目、顎下面横ナデ、顎裏面縦縄タタキ後横ナデ。頸部曲げ皺あり。平瓦凹面布目、凸面縦縄タタキ、側面縦ナデ。	12世紀。山城産。尊勝寺(奈文研1961)295A型式と同紋。円勝寺(市埋文1996)508と同紋。	計4点出土。
255	陽刻連巴紋。巴紋は分離し、5単位。巴紋は、右巻二巴で、頭部・尾部は離れる。外区に下方のみ界線あり。瓦当面に布目残存。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上面布目、顎下面横ナデ、顎裏面斜方向縄タタキ。	12世紀。山城産。平安京左京八条三坊十一町(網ほか1996)と同紋。尊勝寺(上村1990)27と同紋。	計1点出土。

瓦番号	瓦当紋様	成形技法	同范・同紋	備考
256	陰刻連巴紋。巴紋は互いに接し、9単位。巴紋は右巻二巴で、頭部は接し、尾部は離れる。周縁は素紋直立縁。瓦当面范キズあり。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、上面布目、顎下面横ナデ、顎裏面オサエ。頸部曲げ皺・布目あり。平瓦凹面布目、凸面オサエナデ、側面縦ナデ、狭端面横ナデ。范はB型。	12世紀。山城産。法金剛院(小松1998ほか)24と同紋。	計6点出土。1995年報告、図46-10。
257	陽刻斜格子紋。格子は太い。周縁は素紋直立縁で、下縁のみあり。瓦当面范キズ多い。	曲線顎Ⅱ。瓦当半折曲成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面横ナデ。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ、側面縦ナデ。范はB型。	12世紀。山城産。	計2点出土。
258	剣巴紋。中央に右巻二巴紋、両側に陰刻剣頭紋を配す。巴紋は頭部・尾部離れる。剣頭配置は垂直。周縁は素紋直立縁。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。頸部に凹型台圧痕あり。平瓦凹面布目、凸面縦ナデ。	13世紀。山城産。	計1点出土。
259	文字紋。内区に「南無阿弥陀仏」を縦書きで、右から左へ配置。外区なし。周縁は素紋直立縁。	長段顎。瓦当顎貼付成形。瓦当上面横ケズリ、顎下面横ケズリ、顎裏面横ケズリ。平瓦凹面糸切痕跡・布目・横ケズリ、凸面横ケズリ、側面縦ケズリ。	13世紀。和泉産。和泉真福寺遺跡・大保廃寺(市本2001)図16左9と同紋。	計1点出土。
260	連珠紋。連珠は丸く盛り上がる。単位不明。外区に界線。周縁は素紋直立縁。	曲線顎Ⅱ。瓦当顎貼付成形。顎下面横ナデ、顎裏面横ナデ。	13世紀。和泉産。最勝光院(上村2012)448と同紋。日置荘遺跡(市本2001)図17左7と同紋。	計1点出土。